

流域治水プロジェクト2.0 策定・公表に向けたスケジュール(案)

- 令和2年度から策定、更新してきた「流域治水プロジェクト」について、今年度、全国109の一級水系で「流域治水プロジェクト2.0」に更新することになった(R5.8.22国交省本省発表: https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo05_hh_000179.html)。
- 北上川水系における流域治水の取組状況は以下のとおり

R2.9.16 流域治水協議会 設置

▼ 流域治水プロジェクト1.0

R4.3.31 流域治水プロジェクト策定・公表

▼

R5.6.6 流域治水プロジェクト更新・公表
流域関係者の取組状況の見える化

令和5年12月22日 流域治水プロジェクト2.0に関する説明

令和6年2月19日(月)
流域治水協議会(協議会) ……流域治水プロジェクト2.0取組(案)の提示

▼ 流域治水プロジェクト2.0

令和6年3月 流域治水プロジェクト2.0 策定・公表

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

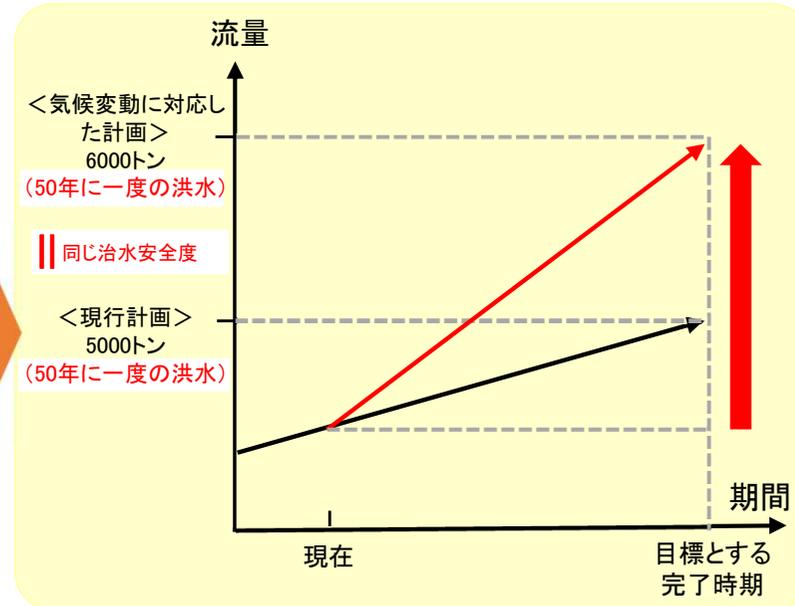
現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

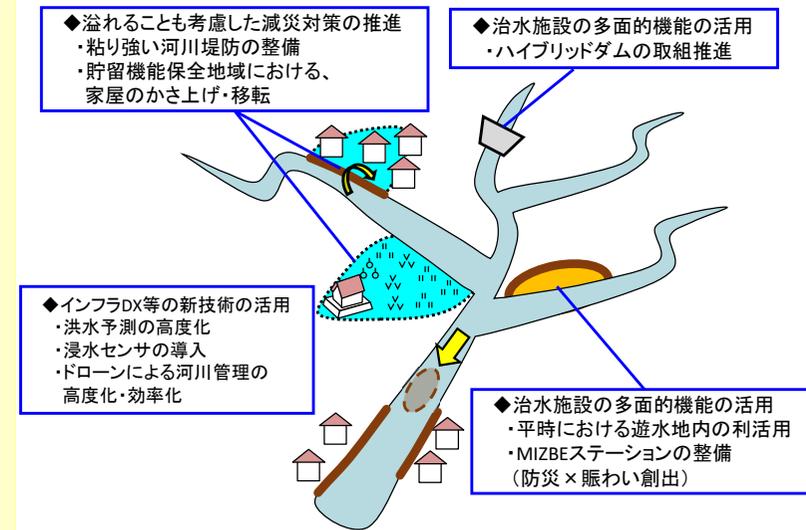
必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

同じ治水安全度を確保するためには、**目標流量を1.2倍に引き上げる必要**

※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

気候変動に伴う水害リスクの増大【北上川水系(北上川上流)】

○戦後最大洪水を記録した昭和22年9月洪水に対し、気候変動(2°C上昇時)の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、北上川水系北上川流域では浸水世帯数が約9,300世帯(気候変動考慮前の約2.7倍)になると想定されるが、事業の実施により浸水被害が解消される。

■ 気候変動に伴う水害リスクの増大

■ 浸水想定図作成条件〈想定外力〉

北上川： 昭和22年9月洪水に気候変動を考慮した降雨 ※支川の氾濫、内水による氾濫等を考慮していない。

〈気候変動考慮前〉

〈気候変動考慮後(1.1倍)〉

〈対策後〉

現況

現況

現況

浸水世帯数
約0世帯

浸水世帯数
約3,500世帯

浸水世帯数
約9,300世帯

広範囲で浸水被害が発生

広範囲で浸水被害が拡大

浸水被害を防止

河道掘削等の
ハード整備に加え、
次頁に示す
ソフト対策・流域
対策等も一緒に
推進

【目標①】KPI: 浸水世帯数
約9,300世帯 ⇒ 0世帯

気候変動に伴う水害リスクの増大【北上川水系(北上川上流)】

■ 水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	岩手河川国道事務所、北上川ダム統合管理事務所、岩手県、盛岡市、花巻市、北上市、遠野市、一関市、八幡平市、奥州市、滝沢市、岩手町、紫波町、矢巾町、平泉町、金ケ崎町	現行の治水安全度確保、洪水による災害の発生防止又は軽減	河道掘削: 約V=8,000,000m ³ (現計画の約1.1倍) 貯留施設整備の検討 護岸整備 ダムの効率的・効果的な運用検討	概ね30年
	岩手河川国道事務所、林野庁、岩手県、森林研究・整備機構 森林整備センター、盛岡市、紫波町、矢巾町、金ケ崎町	雨水貯留機能の向上、流出抑制による水害リスク軽減、土砂流出防止や水源涵養機能等森林の有する公益的機能の維持増進	田んぼダム・ため池の検討 防災調節池整備 貯留区域の検討	概ね5~20年
被害の軽減・早期復旧・復興	盛岡地方气象台、岩手県、盛岡市、花巻市、北上市、遠野市、一関市、八幡平市、奥州市、滝沢市、雫石町、岩手町、紫波町、矢巾町、西和賀町、金ケ崎町、平泉町	河川の増水や氾濫等に対する水防活動の判断や住民の避難行動の参考、住民の防災意識向上、被災自治体への気象支援資料の提供次期気象衛星の整備、数値予測モデルの改良	防災通信環境の整備 避難所の環境整備	概ね5年
	岩手河川国道事務所、北上川ダム統合管理事務所、盛岡市、花巻市、八幡平市、滝沢市、奥州市、紫波町、矢巾町、金ケ崎町	気候変動への対応 地域活性化 災害対応の明確化 浸水時の人的被害軽減	ワンコイン浸水センサの整備	概ね5年

北上川水系流域治水プロジェクト2.0【位置図（上流）】

～東北一広大な流域と上下流の特徴的な地形特性を踏まえた河川整備と森林や農地等を活用した治水対策の推進～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、北上川水系においては、広大な森林面積や地域の主産業（農業等）などの地域特性を考慮し、河川整備に併せて、森林整備、治山対策や農地等の活用などの流域治水の取り組みを実施していくものとし、更に国管理区間においては、**気候変動（2℃上昇時）下でも目標とする治水安全度を維持するため、降雨増加量（雨量1.1倍）を考慮した戦後最大洪水である昭和22年9月洪水を安全に流下させることを目指す。**
- 北上川流域では、気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来に渡って安全な流域を実現するため、特定都市河川浸水被害対策法（以下「法」）の検討を行い、**更なる治水対策を推進する。**
- 想定される浸水区域の中に地域産業の安全・安心を下支える様々な工場もあり、流域の生業と暮らしを併せて水害から守るため、**今後も河道掘削を継続実施していくとともに、新たな貯留区域の検討や護岸整備などの対策を行い、あらゆる関係者が協働して流域治水に取り組む。**
- **ハード整備については、親水護岸など水辺と触れ合える環境整備、地域の歴史と文化を反映した賑わい水辺空間の創出の検討も併せて取り組む。**

（国）堤防整備・強化、河道掘削、護岸整備、貯留施設整備、**ダムの効率的・効果的な運用検討、既存砂防堰堤の機能改良・流木対策検討**（県）広域河川改修事業、河道掘削、堤防整備の検討、木賊川遊水地整備、**貯留区域の検討**

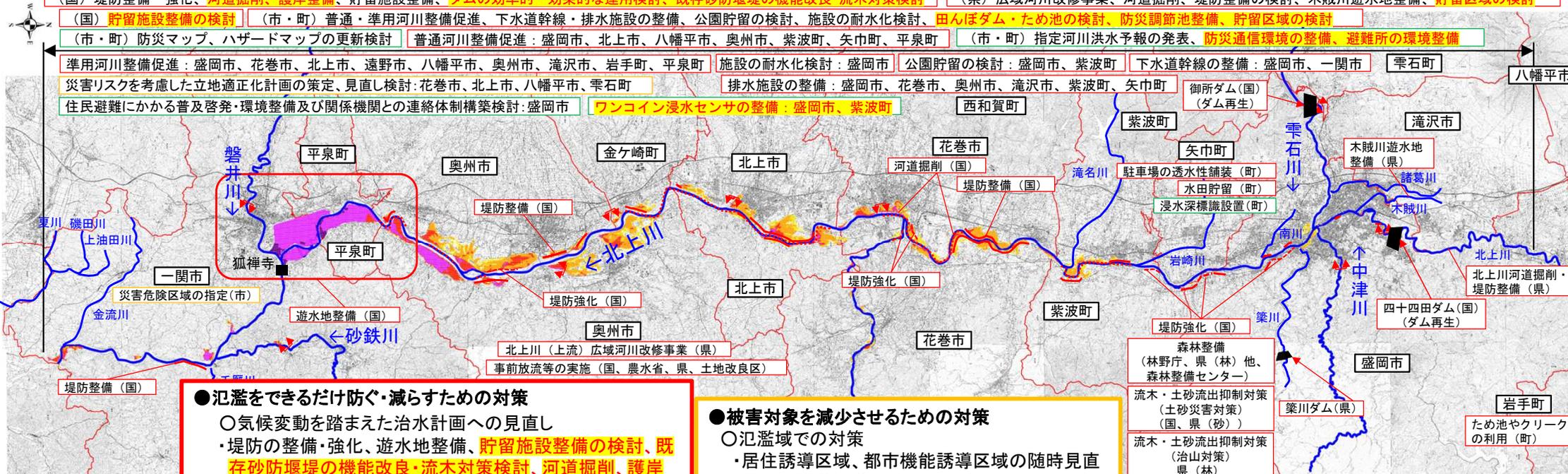
（国）**貯留施設整備の検討**（市・町）普通・準用河川整備促進、下水道幹線・排水施設の整備、公園貯留の検討、施設の耐水化検討、**田んぼダム・ため池の検討、防災調節池整備、貯留区域の検討**

（市・町）防災マップ、ハザードマップの更新検討 普通河川整備促進：盛岡市、北上市、八幡平市、奥州市、紫波町、矢巾町、平泉町（市・町）指定河川洪水予報の発表、**防災通信環境の整備、避難所の環境整備**

準用河川整備促進：盛岡市、花巻市、北上市、遠野市、八幡平市、奥州市、滝沢市、岩手町、平泉町 施設の耐水化検討：盛岡市 公園貯留の検討：盛岡市、紫波町 下水道幹線の整備：盛岡市、一関市 雫石町

災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定、見直し検討：花巻市、北上市、八幡平市、雫石町 排水施設の整備：盛岡市、花巻市、奥州市、滝沢市、紫波町、矢巾町

住民避難にかかる普及啓発・環境整備及び関係機関との連絡体制構築検討：盛岡市 **ワンコイン浸水センサの整備：盛岡市、紫波町** 西和賀町 御所ダム（国）（ダム再生）



● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 気候変動を踏まえた治水計画への見直し
 - ・堤防の整備・強化、遊水地整備、**貯留施設整備の検討、既存砂防堰堤の機能改良・流木対策検討、河道掘削、護岸整備**、準用河川・普通河川の整備促進、北上川上流ダム再生事業、事前放流の実施、ダムの堆砂対策、流木・土砂流出抑制対策、**ダムの効率的・効果的な運用検討、河川管理の高度化・効率化(3次元点群データの活用等)**
 - ・排水路整備、排水能力の増強、雨水排水ポンプ増設、下水道幹線の整備
- 流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進
 - ・駐車場の透水性舗装、公園貯留
 - ・水源林造成事業による森林の整備・保全
 - ・**田んぼダム・ため池の検討**
 - ・**防災調節池整備の検討**
- 溢れることも考慮した減災対策の推進
 - ・排水機場の適正な維持管理、施設の耐水化
- 既存ストックの徹底活用
 - ・**貯留区域の検討**

● 被害対象を減少させるための対策

- 氾濫域での対策
 - ・居住誘導区域、都市機能誘導区域の随時見直し、居住誘導促進
 - ・災害危険区域の指定

● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 気候変動を踏まえた治水計画への見直し
 - ・ハザードマップ作成・周知・更新
 - ・**ワンコイン浸水センサの整備**
 - ・浸水深標識の設置
- 多面的機能を活用した治水対策の推進
 - ・災害時の計画作成
 - ・適時的確な防災気象情報の発表
 - ・気象予測の高度化
 - ・**避難所の環境整備**
 - ・**指定河川洪水予報の発表、防災通信環境の整備**

凡例		凡例	
	堤防整備		想定される水深 0.5m未満の区域
	堤防強化		0.5～1.0m未満の区域
	河道掘削		1.0～3.0m未満の区域
	大臣管理区間		3.0～5.0m未満の区域
			5.0～10.0m未満の区域
			10.0m以上の区域

※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画変更の過程でより具体的な対策内容を検討する。



北上川流域治水プロジェクト2.0

氾濫を防ぐ・減らす

- 気候変動を踏まえた治水計画への見直し
(2°C上昇下でも目標安全度維持)
＜具体の取組＞
 - ・堤防の整備・強化、遊水地整備、**貯留施設整備の検討、河道掘削、護岸整備**、準用河川・普通河川の整備促進、北上川上流ダム再生事業、事前放流の実施、ダムの堆砂対策、流木・土砂流出抑制対策、**ダムの効率的・効果的な運用検討**
 - ・排水路整備、排水能力の増強、雨水排水ポンプ増設、下水道幹線の整備
- 流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進
＜具体の取組＞
 - ・駐車場の透水性舗装、公園貯留
 - ・水源林造成事業による森林の整備・保全
 - ・**田んぼダム・ため池の検討**
 - ・**防災調節池整備の検討**
- 溢れることも考慮した減災対策の推進
＜具体の取組＞
 - ・排水機場の適正な維持管理、施設の耐水化
- 既存ストックの徹底活用
＜具体の取組＞
 - ・**貯留区域の検討**

被害対象を減らす

- 民間資金等の活用
＜具体の取組＞
 - ・浸水被害軽減の宅地嵩上げ支援等
 - ・居住誘導区域、都市機能誘導区域の随時見直し、居住誘導促進
 - ・災害危険区域の指定

被害の軽減・早期復旧・復興

- 気候変動を踏まえた治水計画への見直し
(2°C上昇下でも目標安全度維持)
＜具体の取組＞
 - ・ハザードマップ作成・周知・更新
 - ・**ワンコイン浸水センサの整備**
 - ・浸水深標識の設置
- 多面的機能を活用した治水対策の推進
＜具体の取組＞
 - ・災害時の計画作成
 - ・適時的確な防災気象情報の発表
 - ・気象予測の高度化
 - ・**避難所の環境整備**
 - ・**指定河川洪水予報の発表、防災通信環境の整備**
- 溢れることも考慮した減災対策の推進
＜具体の取組＞
 - ・出前講座の実施
- インフラDX等の新技術の活用
＜具体の取組＞
 - ・防災気象情報の利活用に関する普及・啓発活動
 - ・想定最大規模降雨によるハザードマップや水害リスクに関する情報の住民周知、防災に関する知識の習得・強化
 - ・水害対応タイムライン改善や見直し、マイ・タイムラインの普及促進
 - ・水防訓練の実施、水防体制の確保、住民参加型の実践的な訓練の実施、広域避難を含む連携、防災に関する情報伝達体制の充実・検討
 - ・ホットライン連絡体制の構築、要配慮者利用施設等の所管部局との連携、共助の仕組強化

北上川水系流域治水プロジェクト2.0【流域治水の具体的な取組】

北上川上流

～東北一広大な流域と上下流の特徴的な地形特性を踏まえた河川整備と森林や農業等を活用した治水対策の推進～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：60%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



14市町村

（令和5年度末時点）

流出抑制対策の実施



8施設

（令和4年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 27箇所
（令和5年度実施分）

砂防関連施設の
整備数 3施設
（令和5年度完成分）
※施行中 27施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



5市町村

（令和5年7月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 90河川
（令和5年9月末時点）

内水浸水想定
区域 4団体
（令和5年9月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



洪水 1,437施設
避難確保
計画 土砂 173施設
（令和5年9月末時点）

個別避難計画 13市町村
（令和5年1月1日時点）

被害をできるだけ防ぐ・減らすための対策



盛岡市

【公園貯留（維持管理が容易で安全性の高い防災調整池）】
○令和5年4月1日に供用を開始した「いわて盛岡ボールパーク」に排水調整池を整備し流出抑制を図る。通常時は駐車場として活用。

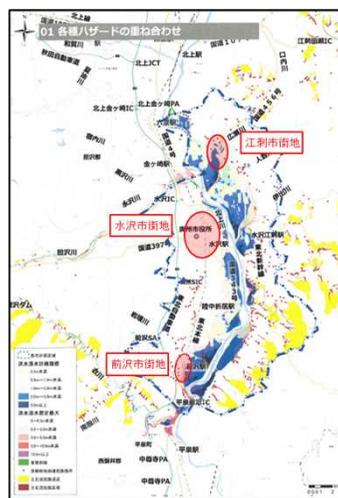


矢巾町

【田んぼダム実証事業に係る現地説明会開催】

○流域治水対策として、内水氾濫等に効果があるとされる田んぼダムの取組みについて、実証圃による現地説明会を行い、農業従事者の理解と協力の促進を図る。
○令和3年7月29日（木）町内園場にて開催。

被害対象を減少させるための対策



奥州市

【災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定】

○立地適正化計画で定める誘導区域を設定するにあたって、各地域の災害リスクの分析、リスクの回避、軽減に向けた対策を検討する。令和3年度は東北地方整備局建設部都市・住宅整備課の支援を受け防災指針案の作成作業を進めている。

【現状】

- ・誘導区域の設定を検討している区域が、ハザードエリアとなっている。
- ・江刺、前沢地域において、市街地の大半が浸水想定区域内となっている。

【検討内容】

- ・浸水被害等のリスク分析・課題の抽出
- ・立地適正化計画と防災指針の整合について
- ・災害リスクの回避・軽減に向けた事業について

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策



一部様式の検討や作成を行う「実践方式」による講習



避難経路の検討状況

国、岩手県、各市町

【要配慮者利用施設等の「避難確保計画の作成」及び「避難訓練」の促進】

○市町村毎に対象となる要配慮者利用施設の管理者を集め、河川事務所・市町村担当者の参画のもと講習会形式で計画作成を実施。

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



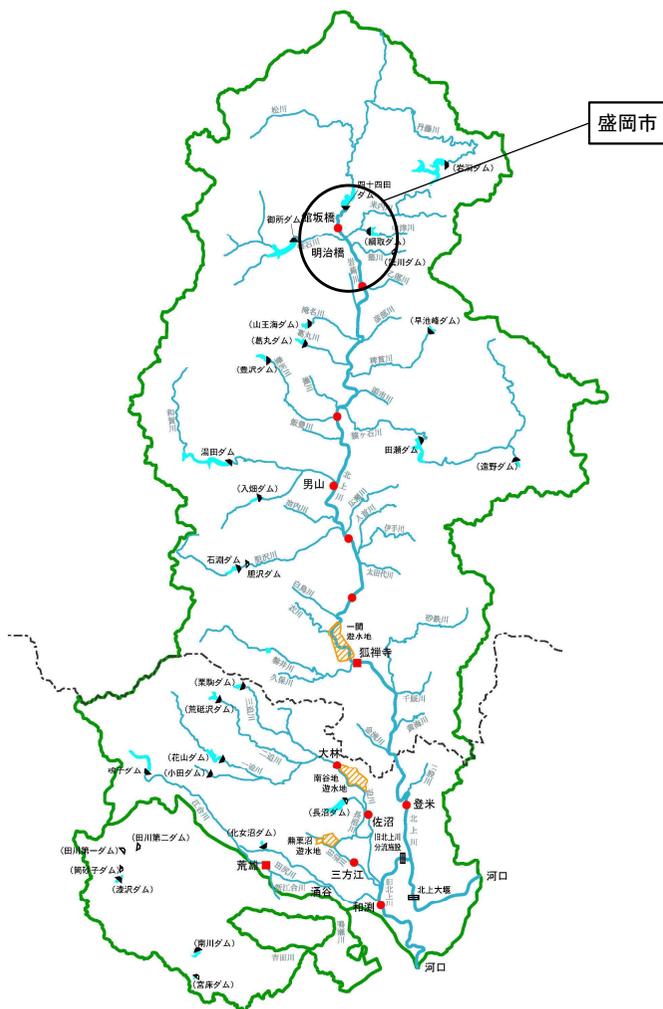
盛岡市

○排水施設の整備推進(盛岡市公共下水道(雨水)施設整備事業)

近年の局地的集中豪雨による浸水防除のためにも、公共下水道(雨水)事業の施設整備を実施することで、市民の生命・財産の保護及び都市機能の確保を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

○北上川上流流域関連盛岡市公共下水道事業計画に基づき、排水能力の向上を図るため雨水排水ポンプを増設。

<下水道事業計画>

当初認可年月日 昭和28年3月31日
 現認可年月日 令和5年3月20日
 事業計画面積 4819.2ha
 整備面積 3311.3ha
 整備率 68.7%
 令和5年3月末時点



大雨時



整備状況

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
排水施設の整備	雨水排水ポンプ増設	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



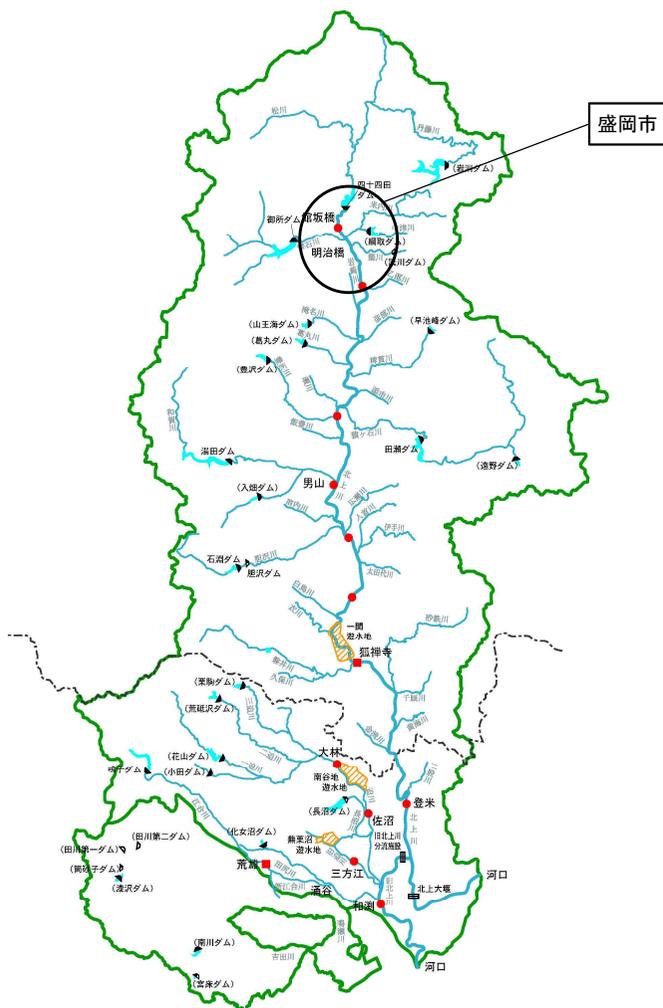
盛岡市

○下水道幹線の整備推進(盛岡市公共下水道(雨水)管渠整備事業)

近年の局地的集中豪雨による浸水防除のためにも、公共下水道(雨水)事業の管渠整備を実施することで、市民の生命・財産の保護及び都市機能の確保を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取り組み内容

○北上川上流流域関連盛岡市公共下水道事業計画に基づき、下水道幹線の整備を推進。

<下水道事業計画>

当初認可年月日 昭和28年3月31日
 現認可年月日 令和5年3月20日
 事業計画面積 4819.2ha
 整備面積 3311.3ha
 整備率 68.7%
 令和5年3月末時点



大雨時



整備状況

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
排水路の整備	下水道幹線整備	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



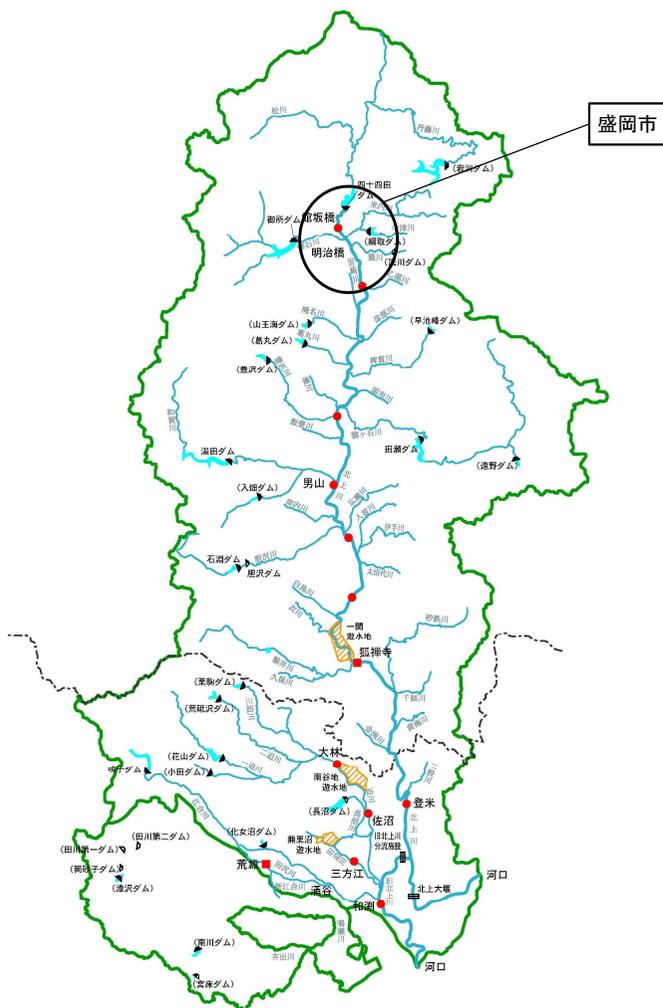
盛岡市

○施設の耐水化の推進(盛岡市下水道施設耐水化事業)

下水道施設の浸水による機能停止を防止するために、下水道施設の浸水対策を実施することで、災害時における機能確保や被災後の早期復旧を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

○盛岡市耐水化計画に基づき、施設の耐水化を実施。

整備内容：汚水中継ポンプ場1箇所
雨水ポンプ場3箇所
簡易水処理施設1箇所

※建替等の抜本的対策の検討が必要となる施設を除く。

位置図



実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
施設の耐水化	施設の耐水化	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



盛岡市

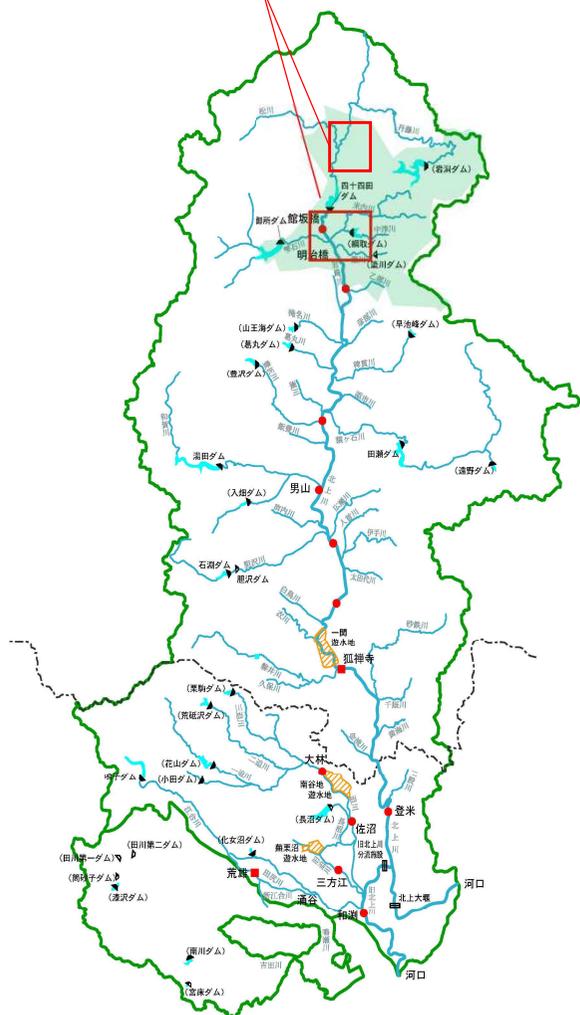
○ 準用河川の整備促進

都市化による雨水流出量の増加や、近年の局地的な大雨による浸水被害を防ぎ、快適で安全な暮らしを守るため、河川の整備を促進し、治水安全度の向上を図ります。

位置図

「北上川水系」

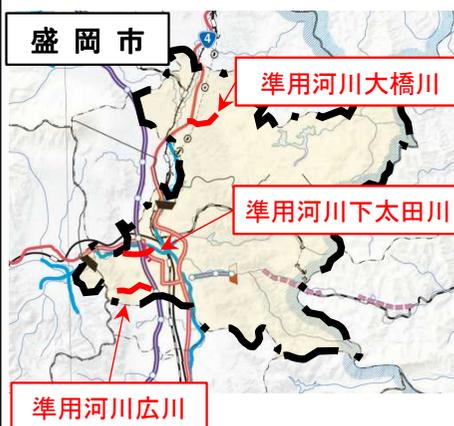
準用河川の整備促進



具体的な取組み内容

- ・ 盛岡市内には準用河川が19河川あり、改修済みは11河川となっている。整備率は約78%（令和5年3月末）である。
- ・ 周辺環境に配慮し多自然護岸による整備を実施している。
- ・ 現在は、大葛川、木伏川と広川の整備を進めている。
- ・ 今後、下太田川、大橋川の整備を進める予定。

位置図



状況写真

準用河川広川



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水範囲の限定、氾濫水の制御	準用河川全体……	実施予定		
	広川・下太田川……	実施予定		
	大橋川……	実施予定		



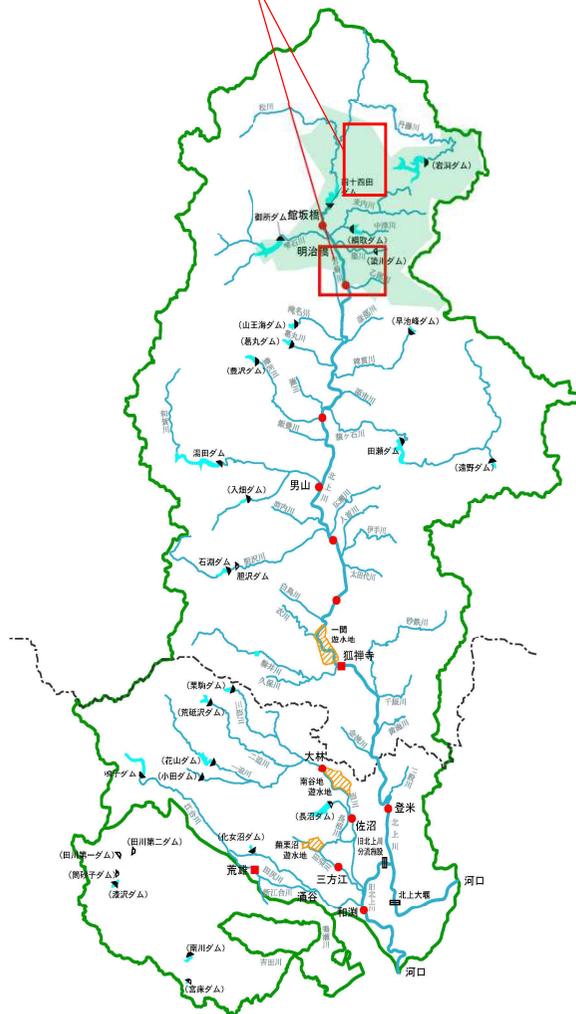
○普通河川の整備促進

都市化による雨水流出量の増加や、近年の局地的な大雨による浸水被害を防ぎ、快適で安全な暮らしを守るため、河川の整備を促進し、治水安全度の向上を図ります。

位置図

「北上川水系」

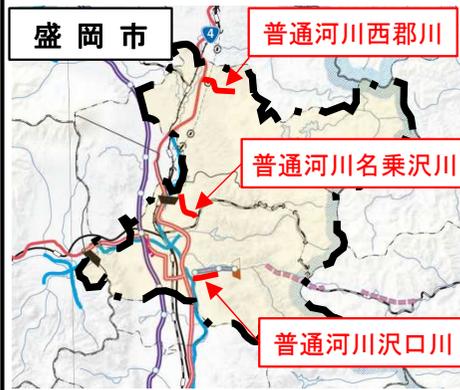
普通河川の整備促進



具体的な取組み内容

- ・盛岡市内には名称のある普通河川が140河川あり、改修は過去の被害等により緊急度、優先度の高い河川から順次整備している。
- ・主要な普通河川の整備率は約55%（令和5年3月末）である。
- ・現在は、沢口川の整備を進めている。
- ・今後、名乗沢川、西郡川の整備を進める。

位置図



状況写真

普通河川沢口川



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水範囲の限定、氾濫水の制御	普通河川全体……	実施予定		
	沢口川 ……	実施予定		
	名乗沢川、西郡川…	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



盛岡市

○維持管理が容易で安全性の高い防災調整池

盛岡南公園の防災調整池は、きたぎんボールパーク敷地外周の利用頻度の低い駐車場の一部を掘り下げ開渠として整備。これにより、下流域の被害リスクを低減するとともに周辺住宅や水田への雨水流出を防止する。また、開渠とすることで地下式に比べ日常の点検や清掃が容易にできる。

位置図

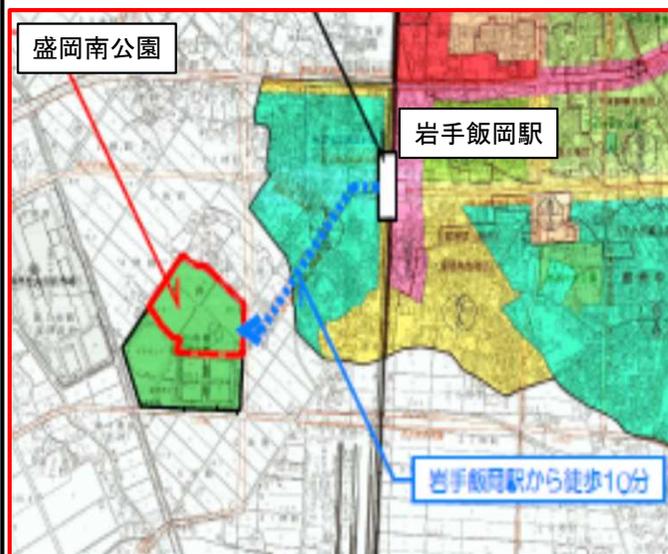
「北上川水系」



具体的な取り組み内容

- きたぎんボールパークの整備に合わせて、盛岡南公園全体の貯留機能向上を図るためを、防災調整池を整備
- 駐車場を活用した防災調整池の流出抑制により、下流域の被害リスクを低減等を図る。

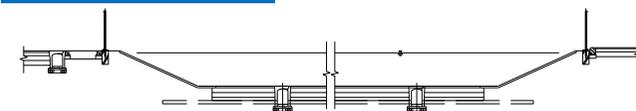
詳細位置図



現地写真



断面イメージ図



実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
下流域の氾濫防止、施設周辺への雨水流出防止	防災調整池整備	供用開始 (R5.4~)	実施予定	

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



盛岡市

○流域の雨水貯留機能(田んぼダム)の推進 「2.0より新規取組」

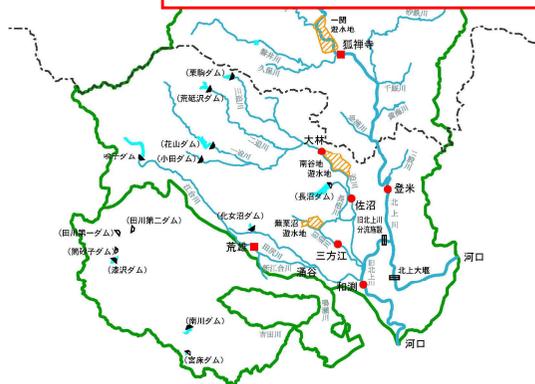
水田の落水口に流出量を抑制する堰板等を設置し、水田に降った雨をゆっくりと排水することで浸水被害リスクを低減させる「田んぼダム」の取組の推進のため、地域共同で行う水田の落水口への調整板の設置、畦畔嵩上げ、これらの維持管理等を支援し、下流域の湛水被害リスクを低減を図る。

位置図

「北上川水系」



田んぼダムの取組みを推進



具体的な取組み内容

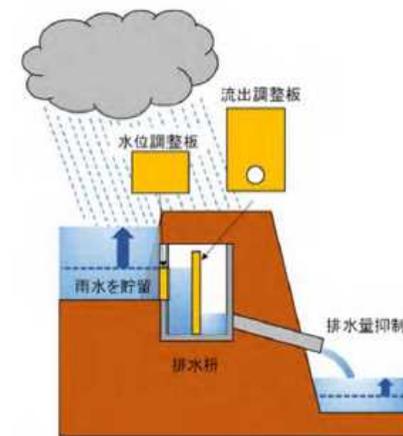
○農業基盤整備事業(令和11~15年度実施予定)に合わせて、水田貯留機能向上を図るため田んぼダム(水田貯留)の取組みを推進。

○水田貯留機能を活用した流出抑制により下流域の湛水被害リスクを低減を図る。

農業基盤整備事業予定地



田んぼダム(イメージ)



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水範囲の限定、氾濫水の制御	田んぼダムの導入			実施 予定



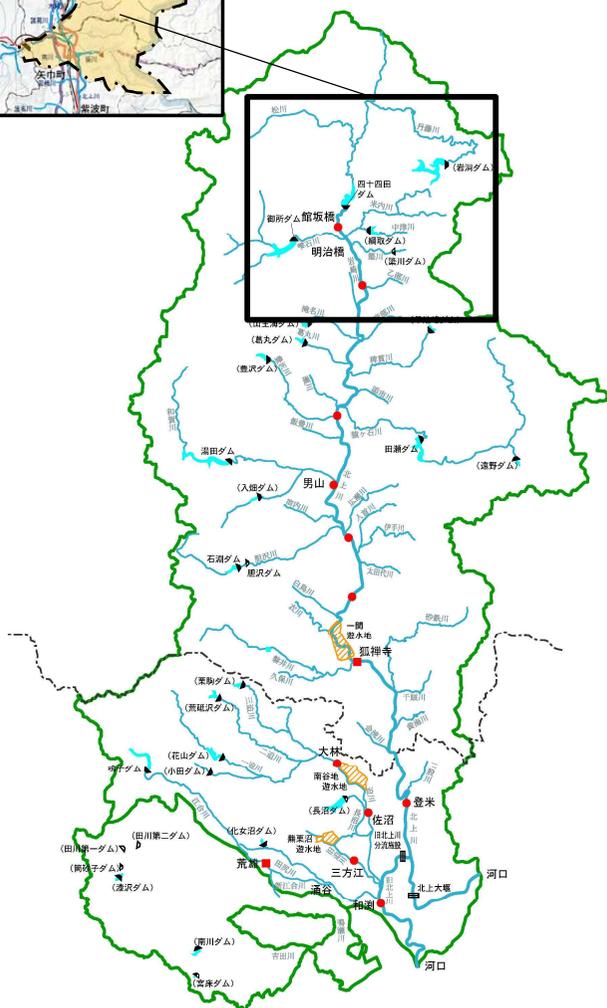
○災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定・見直し(居住誘導区域の見直し)「2.0より新規取組」

- ・浸水リスクを考慮した立地適正化計画(令和2年3月当初策定)を令和5年3月に変更し、防災指針を定めた。
- ・防災指針に基づき、洪水リスクを踏まえた居住誘導区域の見直しによるリスク回避や防災指針パンフレットの配布による住民周知等により、災害リスクの低減を図る。

位置図

盛岡市

「北上川水系」



具体的な取組み内容

【立地適正化計画における防災指針の公表(令和5年3月)及び防災まちづくりの対策】

居住誘導区域及び都市機能誘導区域において、家屋倒壊等氾濫想定区域を含む洪水浸水想定区域が含まれているため、防災指針に基づき、市内の居住誘導区域内全域において次の土地利用、ハード、ソフトの各対策に取り組む。

① 土地利用対策[リスクの回避]

- ・居住誘導区域、都市機能誘導区域の見直し(家屋倒壊等氾濫想定区域の範囲を除外済み)
※土地利用や都市機能の観点から今後も居住誘導が必要とされる地域は、家屋倒壊等氾濫想定区域等の危険性の周知を徹底し、防災対策等を図った上で居住誘導区域に含める。
- ・家屋倒壊等氾濫想定区域の範囲を含むエリアにおける土地利用制限対策等の検討

② ハード対策[リスクの低減]

- ・要配慮者施設への止水板の設置対策の検討

③ ソフト対策[リスクの低減]

- ・3D都市モデル整備の推進(災害リスク及び洪水の浸水時間の可視化)
- ・防災指針パンフレットの作成並びに災害リスクエリアにおける住民への配布及び周知

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
土地利用対策(リスクの回避)	居住誘導区域等の見直し	実施済み	継続実施	
	土地利用制限対策等の検討	検討		
ハード対策(リスクの低減)	止水板の設置対策の検討	検討		
ソフト対策(リスクの低減)	3D都市モデル整備の推進	実施	継続的に活用実施	
	防災指針の周知	実施	継続実施	



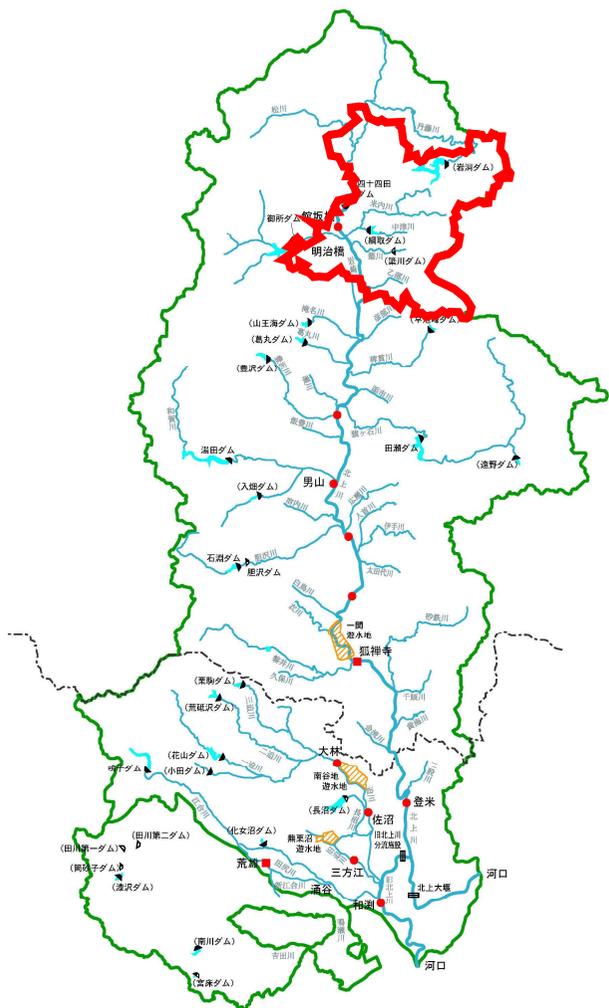
○防災マップの更新等

・災害リスク及び住民避難にかかる普及啓発

・浸水被害の把握によって、避難体制の強化を図る

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

○令和6年に新たに市内17の県管理河川において、洪水浸水想定区域の指定が進められていることから、令和6年度に各河川ごとの洪水ハザードマップを作成するほか、当該河川の浸水想定区域を含めた防災マップを令和7年度以降の整備を検討。
 ○洪水浸水想定区域を把握することで災害への備え、迅速な判断・情報収集につながり、被害の軽減を図る。

平成25年9月17日の大雨における浸水被害(玉山地域)



盛岡市防災マップ



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	<ul style="list-style-type: none"> 洪水ハザードマップ作成・周知 防災マップの更新 	実施予定		



ため池ハザードマップの作成「2.0より新規取組」

平成30年7月豪雨を踏まえた農業用ため池に関する「緊急時等の迅速な避難行動」につなげる対策として、「ため池マップ（岩手県作成）」、「ため池浸水想定区域図（岩手県作成）」、「ため池ハザードマップ（盛岡市作成）」を公表します。

位置図

「北上川水系」

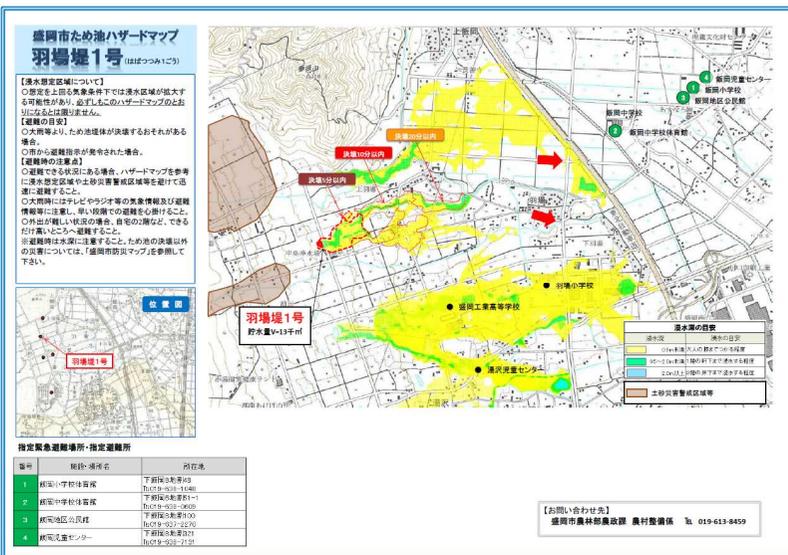


具体的な取組み内容

○ため池マップ(岩手県作成)



○ため池ハザードマップ(盛岡市作成)



施策の実施工程

予定工程を記載

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	ため池ハザードマップの作成	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 実施予定 </div>		



○ワンコイン浸水センサの実証実験への参加(実証実験実施地区の提供)

・浸水発生時の迅速な判断・情報発信に役立つワンコイン浸水センサの実証実験に参加し、状況を早期に把握し、危機管理体制の強化に向けた取組を進める

位置図

「北上川水系」



実証実験実施地区

※位置については今後の検討を経て決定するもので最終的なものではありません

具体的な取組み内容

- 令和6年度に、国土交通省が取組を進めているワンコイン浸水センサの実証実験に参加(予定)
- 浸水発生を早期に把握することで迅速な判断・情報発信への活用、被害の軽減の研究を進める。

平成25年9月17日の大雨における浸水被害(玉山地域)



ワンコイン浸水センサ(整備イメージ)

ワンコイン浸水センサ

小型、低コストかつ長寿命で、流域内に多数の設置が可能な浸水センサ

- ・小型
- ・低コスト
- ・長寿命

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	・ワンコイン浸水センサの実証実験への参加	実施予定		

○流域の雨水貯留機能(浚渫・改修)の推進

近年、激甚化・頻発化の傾向にある水害に備え、花巻市管理河川の浚渫及び改修事業を推進することで、流出抑制や下流域の湛水被害リスクの低減を図る。

位置図

「北上川水系」

花巻市



具体的な取組み内容

- 緊急浚渫推進事業債(令和2～6年度)を活用し、雨水貯留機能向上・改善を図るため、河道内の伐木や堆積土砂の浚渫を実施。
- 緊急自然災害防止対策事業債(令和3～7年度)を活用し、護岸の整備・改修により滞水による護岸洗堀や流域の湛水被害リスクの低減を図る。

浚渫及び改修事業



浚渫前



浚渫後



改修前



改修後



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水範囲の限定、氾濫水の制御	緊急自然災害対策事業債 緊急浚渫推進事業債等の 積極活用による事業推進	適宜実施		

○浸水リスクを考慮した立地適正化計画の見直し

・都市再生特別措置法に基づき、防災・減災の観点から、立地適正化計画に居住誘導区域における防災に関する方針や対策などの指針となる「防災指針」を作成。浸水をはじめとした災害リスクに考慮した居住誘導区域の見直しを適宜検討していく。

位置図

「北上川水系」



浸水リスクを考慮した立地適正化計画の見直し

具体的な取組み内容

【令和5年3月】花巻市立地適正化計画の改定(防災指針の作成)

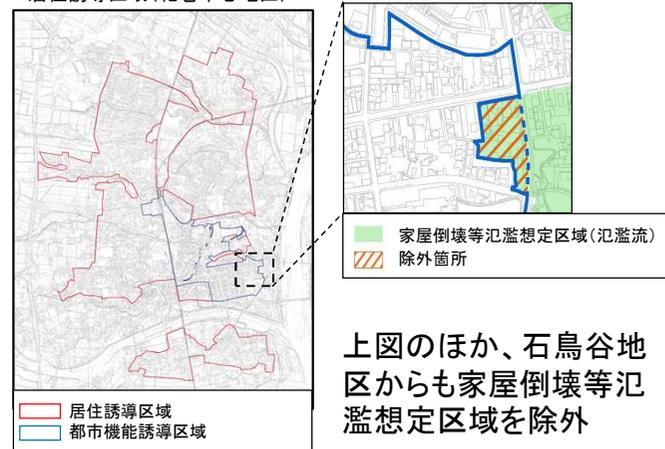
都市づくり目標「安心して住み続けられる都市づくり」に向けて、居住誘導区域内における水災害等のリスクを整理、分析し、花巻市国土強靱化地域計画や花巻市地域防災計画などに基づき、各種施策を整理。

○居住誘導区域の見直し検討

居住誘導区域内における、水害をはじめとした災害リスクを考慮し、居住誘導区域及び都市機能誘導区域から「家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸浸食)」を除外。今後も水害等災害リスクを考慮し、居住誘導区域等の見直しを適宜検討していく。

《区域見直し(抜粋)》

居住誘導区域(花巻中心地区)



上図のほか、石鳥谷地区からも家屋倒壊等氾濫想定区域を除外

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

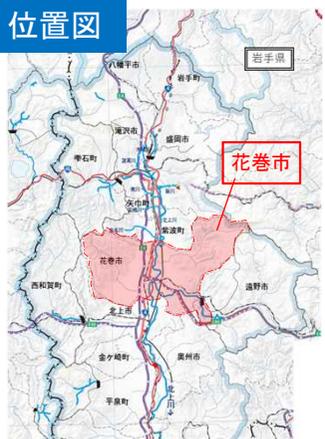
実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水リスクを考慮した立地適正化計画の見直し	災害リスクを考慮した居住誘導区域の見直し	適宜実施		

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

○避難対策事業(防災危機管理体制の充実、自然災害対策の強化)

近年、全国各地で大規模な自然災害が多発していることから、平時における市民の防災意識を高め、災害時における迅速かつ確実な避難行動を促すため、ハザードマップの周知や防災通信環境の整備、避難所の環境整備、避難路の整備が急務となっている。



具体的な取組み内容

住民周知



〈防災ラジオの配布〉



〈広報はなまき〉



〈住民参加型の防災訓練〉



〈自主防災組織等リーダー研修会〉



〈ハザードマップ〉

施策の実施工程

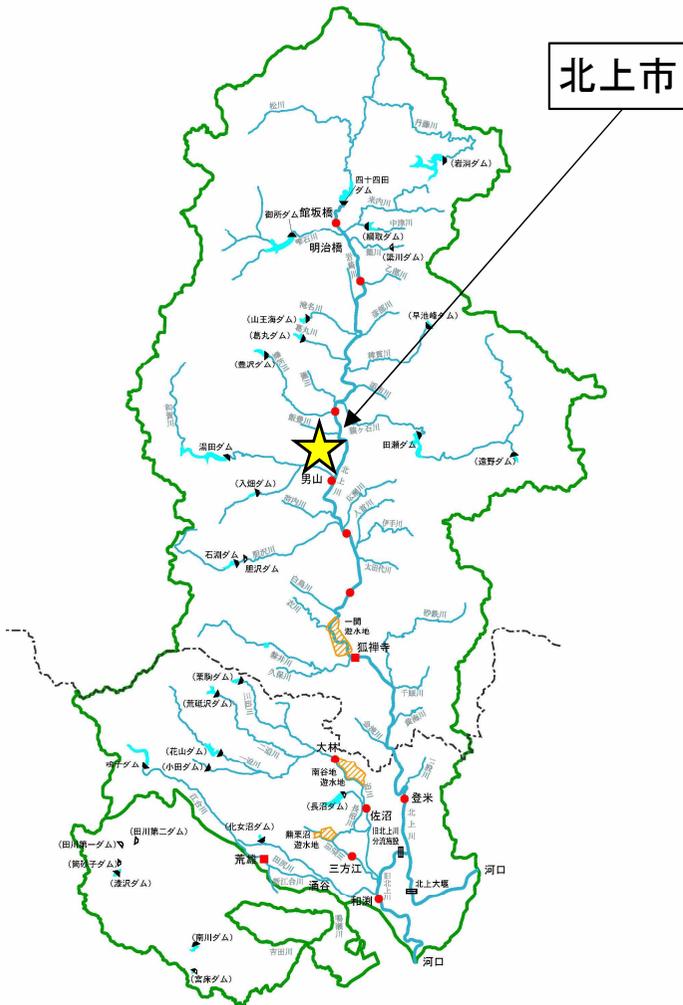
取組項目	対策内容	工程		
		短期(R7まで)	中期(R12まで)	中長期(R12以降)
広域避難を含む連携体制の検討	遠野市との連携(市境に位置する集落間の市境を越えた避難所の融通)		随時実施	
想定最大規模降雨によるハザードマップや水害リスクに関する情報の住民周知	住民への出前講座の実施、広報紙やホームページ等による周知		随時実施	
「マイ・タイムライン」の普及促進	広住民への出前講座の実施、報紙やホームページ等による周知		随時実施	
避難確保計画の作成	施設が今後あらたに浸水想定区域に指定された場合の避難確保計画作成を支援する		随時実施	
住民参加型の実践的な訓練の実施	一連のシナリオに基づく住民参加型の市防災訓練の実施、自主防災組織による防災訓練の実施の支援		随時実施	
浸水想定区域内にある重要施設などへの情報伝達の充実	広報紙やホームページ等による周知に加え、防災ラジオを配布		随時実施	
避難場所の機能強化	避難路の整備(石鳥谷町新堀地区、石鳥谷町八重畑地区)	R6～	避難路拡幅改良整備	

○立地適正化計画の防災指針に基づく取組みの推進

- ・浸水リスクを考慮した立地適正化計画の策定・見直しを令和4年3月に実施。
- ・今後は立地適正化計画の防災指針に基づき、リスクの回避、リスクの低減につながる取組みを推進。

位置図

「北上川水系」

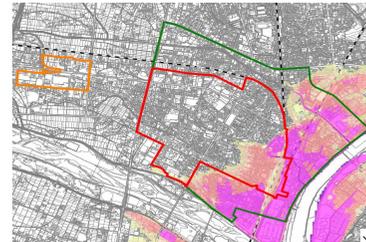


具体的な取組み内容

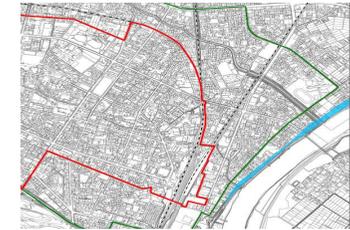
○立地適正化計画の防災指針に基づき、取組みを推進

- リスクの回避
 - ・都市居住区域から、家屋倒壊等氾濫想定区域を含む区域を除外(実施済)
- リスクの低減(ハード)
 - ・協定締結による避難場所確保、防災備蓄倉庫の整備
 - ・避難路への案内看板等の整備
 - ・関係機関へのポンプ増強要望
- リスクの低減(ソフト)
 - ・防災訓練等により、水害時の避難ルートや避難場所の周知徹底
 - ・個別避難支援計画の作成推進により、避難行動要支援者の把握、支援
 - ・水害時マイタイムラインの作成周知により、迅速な避難の推進

(参考) 見直し前の都市機能誘導区域・都市居住区域



見直し後の都市居住区域



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
防災指針に基づく取組みの推進	リスクの回避 リスクの低減	実施予定		

○防災重点農業用ため池ハザードマップ作成

- ・防災重点農業用ため池が決壊した場合、浸水区域内に該当する地域住民が適切に避難することができるよう、ハザードマップを作成する。
- ・ため池が決壊した場合の浸水区域や避難場所をハザードマップで表示する。

位置図

「北上川水系」



大越田

具体的な取組み内容

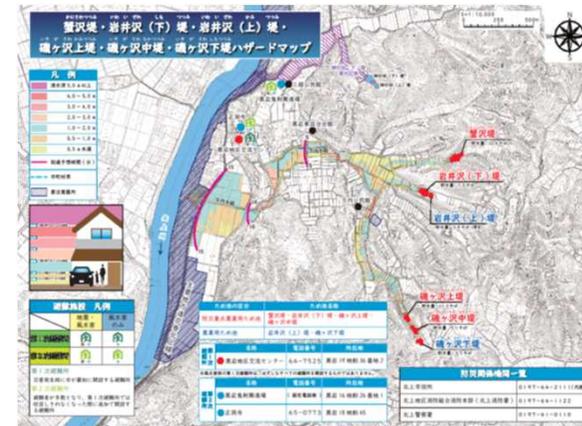
○防災重点農業用ため池が決壊した場合に、地域住民が主体的かつ的確な避難行動を選択できるようにし、ため池の決壊による被害の対象を減らす。

○令和6年度に防災重点農業用ため池ハザードマップ(1箇所・大越田)を作成予定

岩手6期(北上市)地区農業水路等長寿命化・防災減災事業



位置図



ハザードマップの例(今年度作成分)

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R6まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
ため池決壊後の浸水 想定区域を策定	ハザードマップ作成	実施予定		

準用河川の整備推進(赤羽根川河川改修事業)

過去に洪水被害が多発している、準用河川赤羽根川の河川改修工事と合わせ県営ほ場整備事業を実施し、河川の流下能力の確保を図る。また、「田んぼダム」の取組による一級河川猿ヶ石川下流域への流下抑制を図る。

位置図



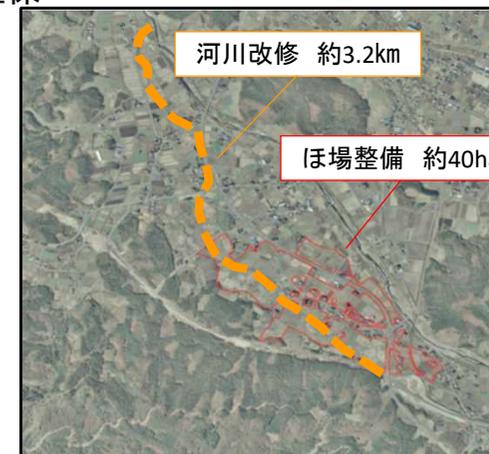
「北上川水系」

具体的な取組み内容

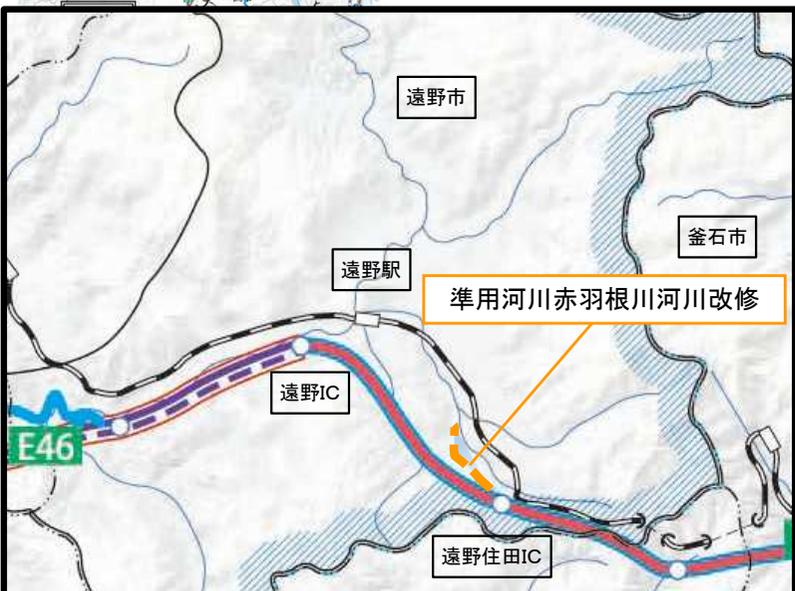
- 現状 河川は蛇行し流下能力不足により浸水被害が発生
水田は不整形、小面積で耕作道も狭小で不効率
- 計画 準用河川赤羽根川改修約3.2km
途中からの分流2箇所
(令和6年度より調査計画を予定)
- ほ場整備約40ha
- 効果 河川改修により持続可能な河道の流下能力の確保
田んぼダムの取組みによる流出抑制



平成11年7月14日撮影



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。



実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
準用河川整備	河川改修	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



○準用河川・普通河川の整備促進

市全域の準用(普通)河川において、土砂浚渫を実施し、大雨時の河川氾濫の抑制を図り、家屋の浸水や道路の冠水を防ぐ。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

- 市が管理する準用(普通)河川で土砂浚渫を実施(予定)
- 土砂浚渫により、河川が本来の流下能力を取り戻し、これまでより流れがよくなることで、大雨時の水位上昇を抑え、家屋の浸水や道路の冠水を防ぐ。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	土砂浚渫	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



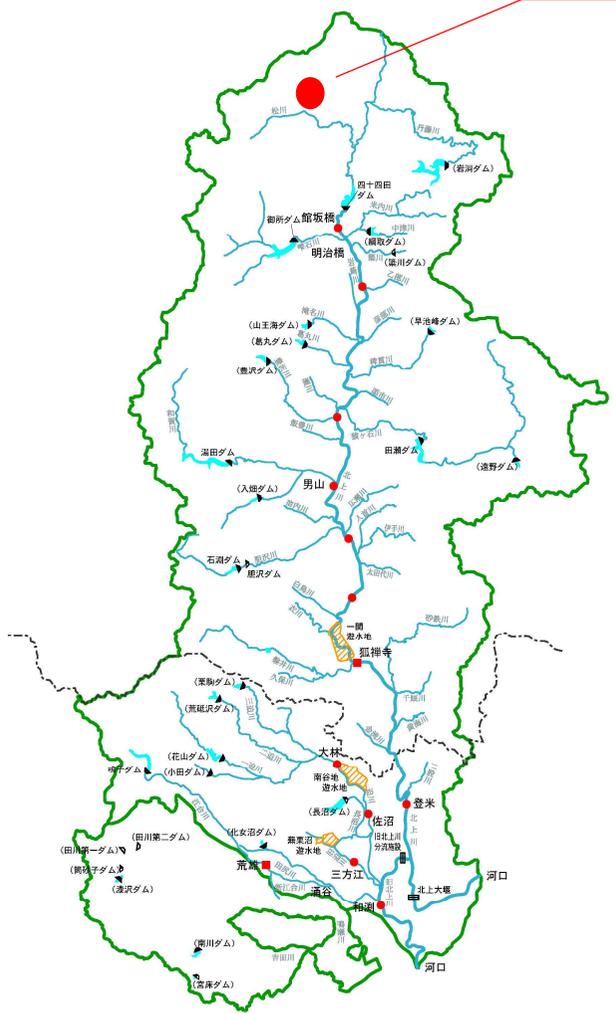
○ 準用河川・普通河川の維持修繕事業

・市内の準用河川及び普通河川は、過去の台風や大雨で幾度となく増水し浸水被害を繰り返したため、河道内に土砂堆積や河床洗堀が見られ、今後想定される大雨等の発生時には、再び浸水被害が発生することから、河川区域内の維持作業を実施します。

位置図

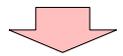
「北上川水系」

涼川・走川



具体的な取組み内容

【現状】市内の準用河川、普通河川は台風や大雨等で幾度となく増水し、浸水被害を繰り返している



【具体的な状況】
 ※河道内に土砂堆積
 ※河床低下により護岸背面の吸出しが発生
 ※土羽護岸の洗堀



【取組状況】
 ※河道掘削の実施
 ※河床低下箇所の整備
 ※吸出し箇所の護岸整備

普通河川涼川



普通河川走川



実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
洪水氾濫対策	準用河川・普通河川の整備促進	実施予定		

○ため池ハザードマップの作成及び住民への周知

・台風や大雨時等における洪水被害の軽減を目的として、ため池が決壊した場合に想定される浸水区域や周辺の避難場所等を内容とした、ため池ハザードマップの作成・配布を行い、洪水リスクや避難場所等の周知を行う。

位置図

「北上川水系」

ため池ハザードマップ



具体的な取組み内容

ため池ハザードマップ

このマップは、農業用ため池が200年に一度の大雨^(注)や地震等の災害により、万が一にも堤が壊れ、皆さんの地域にため池の貯水が流出した場合を想定して作成したものです。想定以上の降雨の場合は、更に浸水想定区域が広がる可能性があります。大雨や大地震時には特に注意し、浸水想定区域にいる方は、速やかに避難が必要です。ため池の貯水は、流出してしまうと徐々に水は引きますが、ため池の周辺には沢や川があるため、継続して雨が降っている場合は完全に水が引くまで避難してください。万一、安全な場所に避難できない場合でも、生命を守る最低限の行動として、近くで周囲の建物より比較的高い建物（鉄筋コンクリート等の堅固な建物）の2階以上に避難するようにしてください。

※200年に一度の大雨

- 豊畑溜池
24時間降雨量：191mm 1時間降雨量：66mm (荒屋観測所 降雨データ)
- 笹目溜池
24時間降雨量：217mm 1時間降雨量：51mm (岩手松尾観測所 降雨データ)
- 高石野溜池
24時間降雨量：249mm 1時間降雨量：50mm (岩手松尾観測所 降雨データ)

- 防災マップへの掲載
- 冊子の全戸配布、市HP掲載による住民への周知
- 出前講座等を開催し、より理解を深めるとともに自主防災の取組を推進する

ため池ハザードマップ



施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	ため池ハザードマップの作成	実施中	実施予定	実施予定

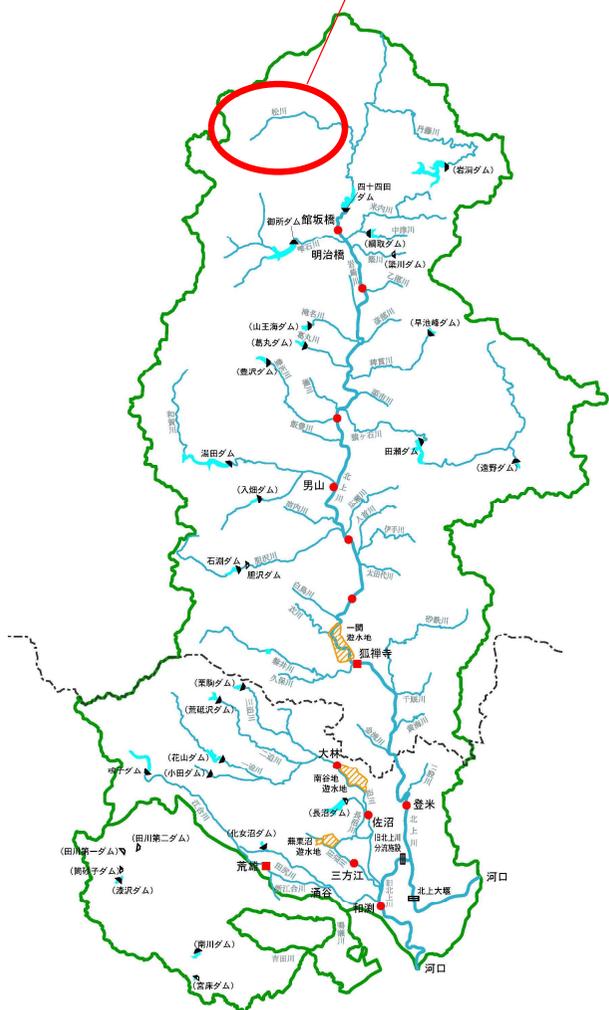
○防災マップ(洪水ハザードマップ)の更新及び住民への周知

・平成30年に松川における洪水浸水想定区域(想定最大規模)が公表されたことに伴い更新した防災マップにより住民への周知並びに自主防災の取組促進を行う。

位置図

「北上川水系」

防災マップの更新



具体的な取組み内容

○洪水浸水想定区域(想定最大規模)及びエリアが重複しない平成25年9月豪雨による浸水域を掲載し注意喚起をしている



- 出前講座等を開催し、より理解を深めるとともに自主防災の取組を推進する
- 防災マップの更新
- 冊子の全戸配布、市HP掲載による住民への周知

保存版

八幡平市

防災マップ

<避難情報の5段階警戒レベル>

レベル5 緊急安全確保 直ちに安全確保

レベル4 避難指示 危険な場所から全員避難

レベル3 高齢者等避難 危険な場所から高齢者等は避難

レベル2 気象注意報 避難行動の確認を

レベル1 早期注意情報 災害への心構えを

自らの命を自らが守るために！

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
その他	防災マップの更新	実施中	実施予定	実施予定

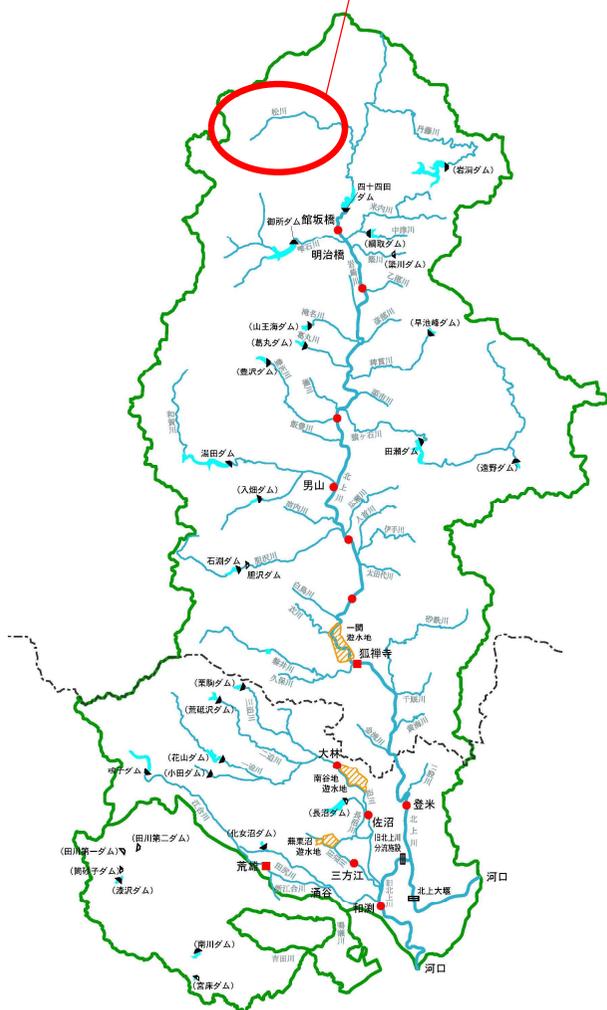
○要配慮者利用施設による避難確保計画作成の支援

・大雨時の被害軽減を目的として、浸水想定区域等に位置する要配慮者利用施設の避難確保計画作成を促進するため、マニュアルの作成や個別相談への対応などを行い、要配慮者利用施設の計画作成を支援します。

位置図

「北上川水系」

避難確保計画作成



具体的な取組み内容

避難確保計画作成率 100%（令和5年11月1日現在）

土砂災害警戒区域内に位置する要配慮者利用施設 ⇒ 2施設中 2施設

要配慮者利用施設避難確保計画に基づく避難訓練の実施

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	避難場所や経路に関する情報の周知	実施中		

○準用河川・普通河川の適正な維持管理

気候変動に伴う降雨量の増加による北上川水系の氾濫を抑制するため、市管理河川のうち24箇所について河道確保のための浚渫を行い治水、排水機能の向上を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

市が管理する準用河川及び普通河川の土砂堆積は深刻な状況であり、近年の激甚化・頻発化の傾向にある水災害に備えるため河川の河道確保が喫緊の課題となっている。このため、令和元年より計画的に市管理河川の河道確保のため浚渫を行ってきており、今後も継続的に事業を実施し、北上川水系の治水及び排水機能の向上にむけた取組みを進めていく。

実施前



実施後



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
氾濫水の制御	河道確保(浚渫)	実施予定		

○ 水利施設の適正な維持管理

北上川増水時の内水排除機能となる既存の水利施設(排水機場)の機能保全を行い内水による水災害被害の発生リスクを軽減させる。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

過去の豪雨においても、北上川本線が増水し、内水が排除しきれず内水による水災害に度々見舞われてきている。

近年の激甚化・頻発化の傾向にある水災害に備えるためにも施設の適正な維持管理や機材の更新は必要不可欠となっている。

このため、市が管理する排水機場等の機能保全のため計画的に機場施設の更新を行い北上川増水時の内水による災害の発生リスクの軽減を図る。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
水利施設の適正な維持管理	水利施設の機能保全	実施予定		

○溢れることも考慮した減災対策の推進

災害リスクを考慮した立地適正化計画の防災指針の実践による災害リスクの低減

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

奥州市における立地適正化計画は、令和6年3月に策定(予定)
 立地適正化計画では、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域などの災害リスクを有する区域を誘導区域に含めないよう区域設定した。
 都市拠点である江刺総合支所周辺及びと前沢駅周辺は、北上川の洪水浸水想定区域があるが既に都市機能及び人口も集積されていることから誘導区域に設定する。
 また、水沢江刺駅周辺にも北上川の洪水浸水想定区域があるが、交通結節機能及び観光交流機能の基点としての都市交通拠点となっているとともに、地域産業である鋳物工場と住宅等が一体となって市街地を形成している地域であることから誘導区域を設定する。
 これら洪水浸水想定区域内の誘導区域については、災害リスクを十分考慮し検討した防災指針に基づき計画的かつ着実な防災・減災対策の取組みを進め、住民の災害リスクの低減を図る。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
減災対策の推進	防災指針の着実な実践	実施予定		

○災害リスクに関する情報の住民周知

災害リスクや災害情報についての住民周知体制の強化

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

- 奥州市ハザードマップの見直し
最新のハザード情報の公表に合わせ改訂を行い対象地域の全戸へ配布を行い住民の自主防災意識の啓発に努める。
- 緊急告知ラジオの配布
地域への情報伝達を充実させ住民のいち早い避難行動を促す。
- 市民生活総合支援アプリ「ぽちっと奥州」の普及促進
生活に必要な情報を随時配信している奥州市公式アプリの普及に努め、アプリを活用した防災情報のち早い情報伝達を行えるよう利用者を増加させる。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
災害リスクに関する情報の住民周知	情報伝達体制の充実	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



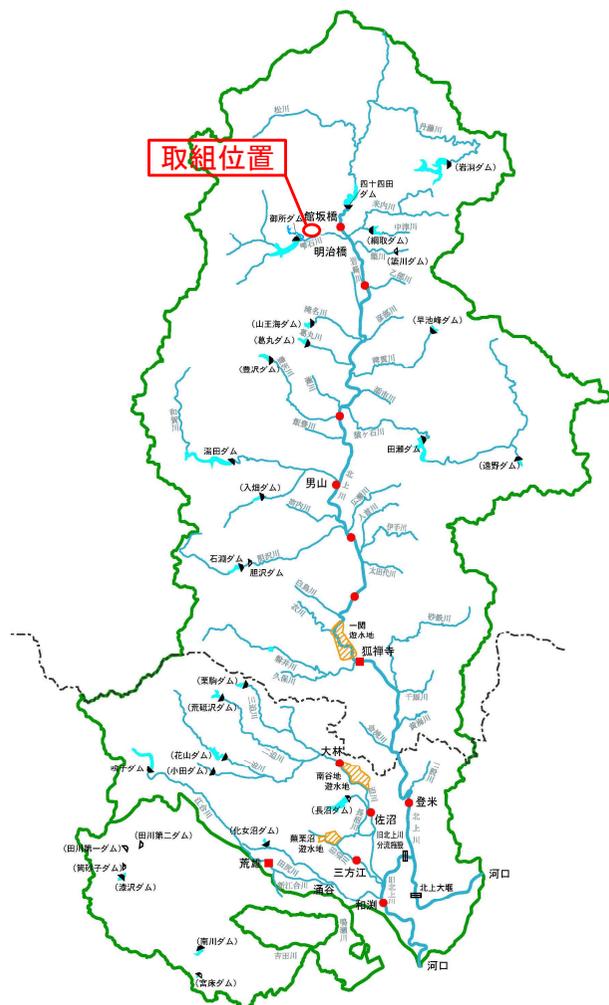
滝沢市

○排水路の整備

近年、激甚化・頻発化の傾向にある水害に備え、雨水排水路の整備を推進することで浸水対策を行い、浸水被害リスクの低減を図る。

位置図

「北上川水系」

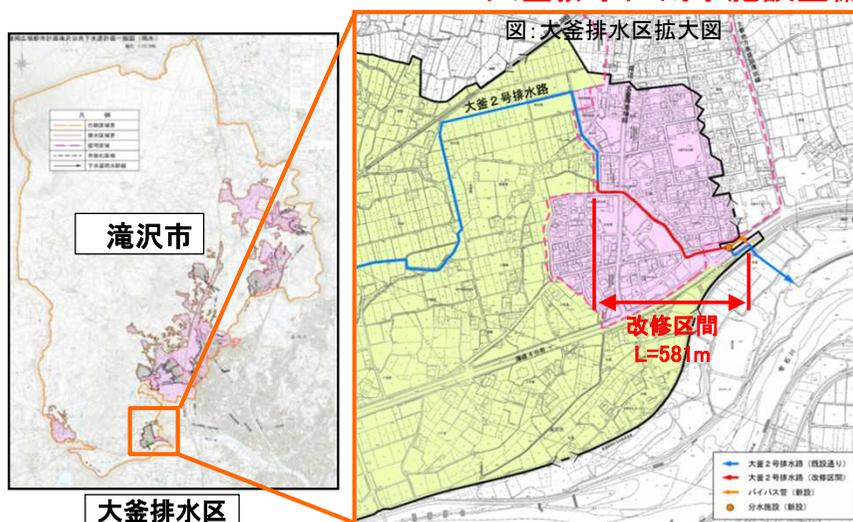


具体的な取組み内容

○大釜排水区雨水施設整備事業(令和2~12年度)により、内水排除機能向上を図る既存排水施設の改修工事を実施。

雨水排水能力の向上により大釜地区の浸水被害リスク低減を図る。

大釜排水区雨水施設整備事業



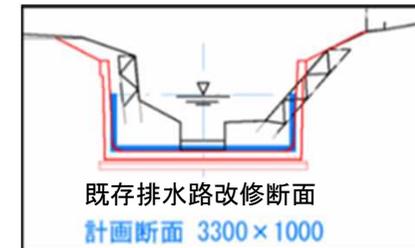
雨水排水施設整備概要

大釜2号排水路断面改修
計画断面

□2400×1200mm ~

□3300×1000mm

改修計画延長 L=581m



既存排水路改修断面

計画断面 3300×1000

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水被害の抑制	雨水排水路の整備・改修	実施 L=228m	実施予定 L=353m	

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



滝沢市

○ 準用河川の整備促進

近年、激甚化・頻発化の傾向にある水害に備え、準用河川の整備を推進することで洪水、越水対策を行い、水害リスクの低減を図る。

位置図

「北上川水系」

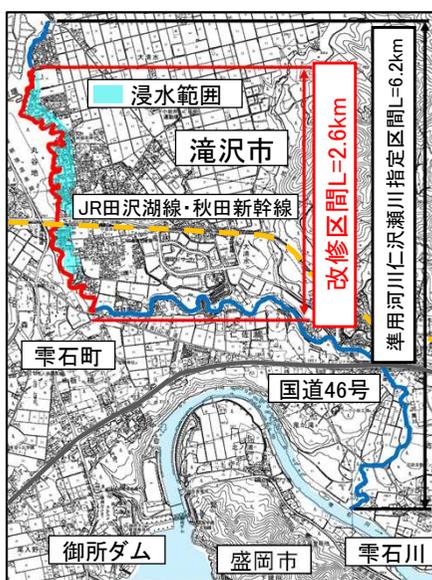


具体的な取組み内容

○ 滝沢市大釜風林地区における準用河川仁沢瀬川改修事業(令和4~28年度)により、河川の流下能力の向上を図る河川改修を実施。
流下能力の向上により、大釜地区の浸水被害リスクを低減を図る。

大釜排水区雨水施設整備事業

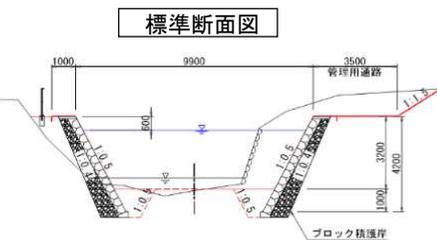
治水対策延長 L=2,600m (改修延長L=1,900m)



H25.8出水状況①



H25.8出水状況②



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

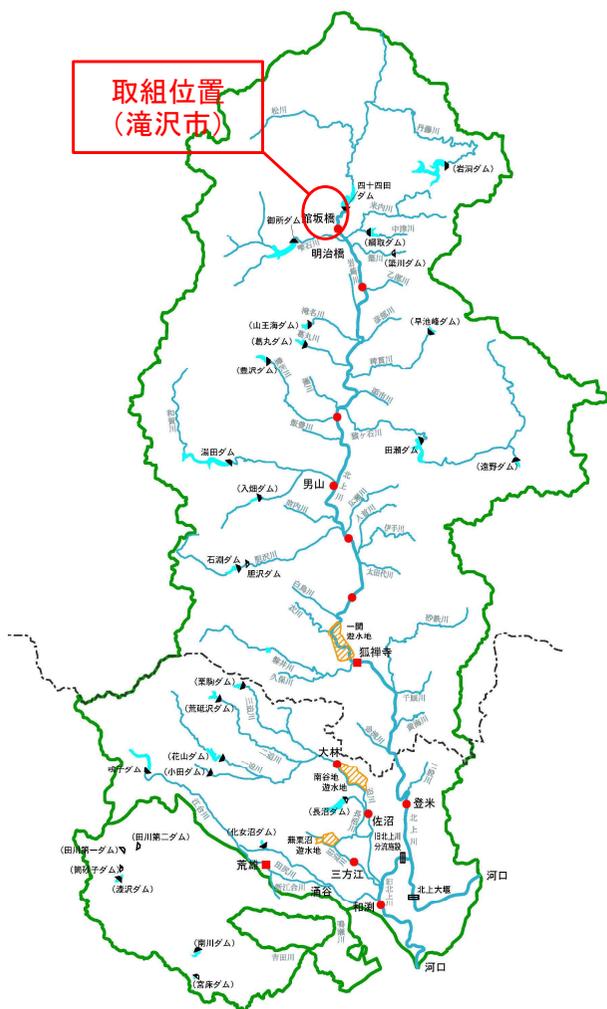
区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
氾濫被害の抑制	築堤・護岸の整備・改修	実施 L=420m	実施予定 L=1480	

○多面的機能を活用した治水対策の推進

- ・避難計画の作成
- ・浸水被害の防止・軽減を図る

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

- 令和6年度に、避難確保計画作成対象となる要配慮者利用施設等の選定
- 令和7年度以降、要配慮者施設等の避難確保計画の作成

令和2年7月大雨における浸水被害



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
要配慮者利用施設等の避難確保計画作成	計画作成支援	実施予定		

○災害リスクを考慮した立地適正化計画の策定

・人口減少・高齢化が進むなか、都市全体の構造「居住機能」と「医療・福祉・商業等の都市機能」をそれぞれ誘導する区域を設定し、それらの区域を地域公共ネットワークで接続することで、高齢者等が安心して暮らせる持続可能な都市形成を目指す計画を令和4年度策定した。

位置図

「北上川水系」



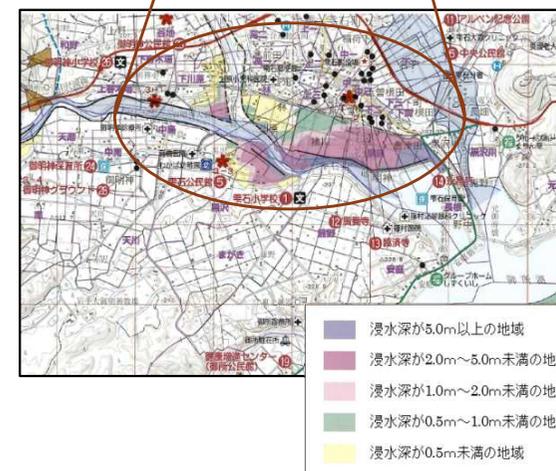
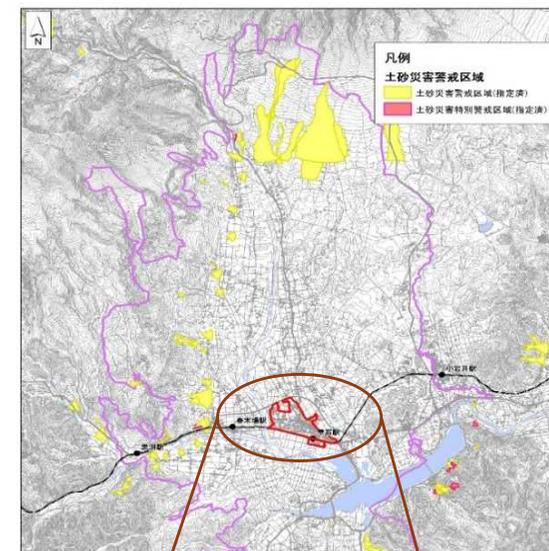
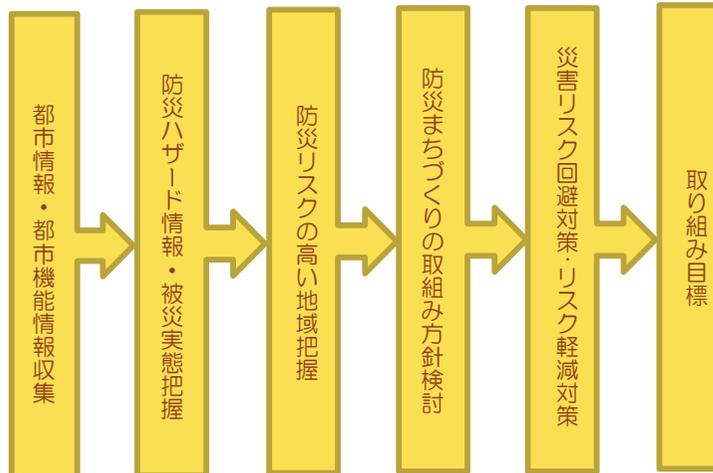
具体的な取組み内容

我が国の都市においては、人口の急激な減少と高齢化を背景として、高齢者や子育て世代にとって、安心できる健康で快適な生活環境を実現することや、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を可能とすることが大きな課題となっています。

雫石町も例外ではなく、こうした中で、医療・福祉施設、商業施設や居住等がまとまって立地し、高齢者を始めとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通等も含めて都市全体の構造を見直す「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考えを進めるため、令和元年度より策定作業を進めています。

令和3年度には、コンパクトで安全なまちづくりを推進するため、災害リスクの高い地域を把握すると共に、居住誘導区域に存する災害リスクに対して、計画的かつ着実に必要な防災対策、減災対策など具体的な内容を検討し、立地適正化計画に防災指針を盛り込みました。

R3年度立地適正化計画策定工程(防災指針部分抜粋)【短期】



① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



岩手町

○河川堆積土砂対策の推進(河道掘削事業)

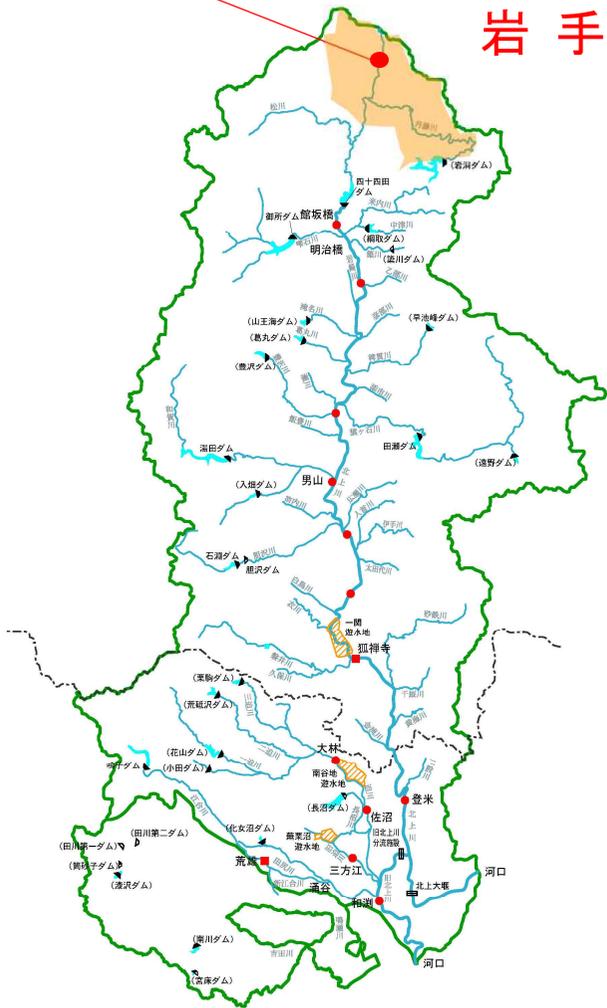
近年、激甚化・頻発化の傾向にある水害に備え、国の緊急浚渫推進事業債を活用して北上川水系の準用河川(江刈内川・小山沢川・新田川)における河川堆積土砂の撤去を行い、河川の流下能力の確保を維持し、流域での洪水対策を推進します。(洪水対策を強化するため新田川を計画に追加しました)

位置図

「北上川水系」

河道掘削の実施

岩手町



具体的な取組み内容

○(令和3~6年度)に合わせて、河川の流下能力向上を図るため河道掘削を実施(予定)
 工事後も河道の堆砂状況を定期的に調査し必要に応じて河道掘削を検討(予定)

岩手町準用河川河道掘削事業

河道掘削工事の効果(令和3年度:江刈内川)



掘削工事中



掘削工事後

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
準用河川の整備促進	河道掘削の実施	実施予定	堆砂状況調査・計画	

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



岩手町

○ため池やクリーク(農業用水路)の利用(県有一方井ダム)

大雨などの気象警報は発せられた場合や早期警戒情報が発表された場合、町が管理する農業用ダム(県有一方井ダム)において貯水余力を向上を目的に事前放流を行い、氾濫を減らすための対策を行います。

位置図

「北上川水系」

岩手町



具体的な取組み内容

位置図



【一方井ダムの諸元】

傾斜コア型ロックフィルダム

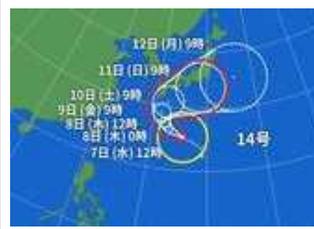
- ・集水面積 5.58km² ・常時満水位401.50m
- ・総貯水量2,240,000m³ (有効貯水量2,170,000m³)
- ・かんがい用最大取水量 0.771m³/S
- ・非常用最大放流量 14.19m³/S

【かんがい区域等】 岩手町一方井地域 610.9ha

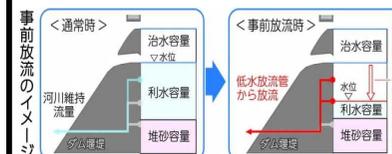
事前放流のフロー(イメージ)

【盛岡地方気象台】

大雨特別警報・大雨警報
台風接近情報・早期警戒情報
の発表



ダム管理者(岩手町農林課・一方井土地改良区)は、ダム点検・貯水量・利水量を確認したうえで事前放流を実施する



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
既存ストックの徹底活用	利水ダム等の治水活用	実施予定		

〇溢れることも考慮した減災対策の推進

被害対象の減少対策として立地適正化計画を策定し、浸水リスクの低い地域への居住の誘導を図る。

位置図

「北上川水系」

岩手町



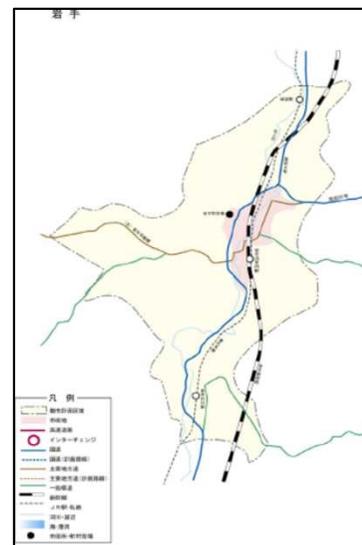
具体的な取組み内容

〇令和7年度に立地適正化計画を策定(居住誘導区域を設定)し、浸水リスクの低い地域への居住の誘導を図る。

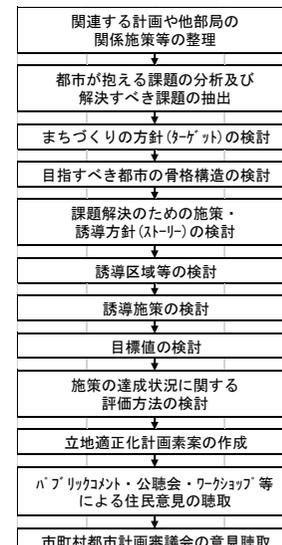
一級河川北上川



計画区域(都市計画区域)



計画策定フロー



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
被害対象の減少対策	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画の策定 誘導施策の実施 	策定予定	実施予定	

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



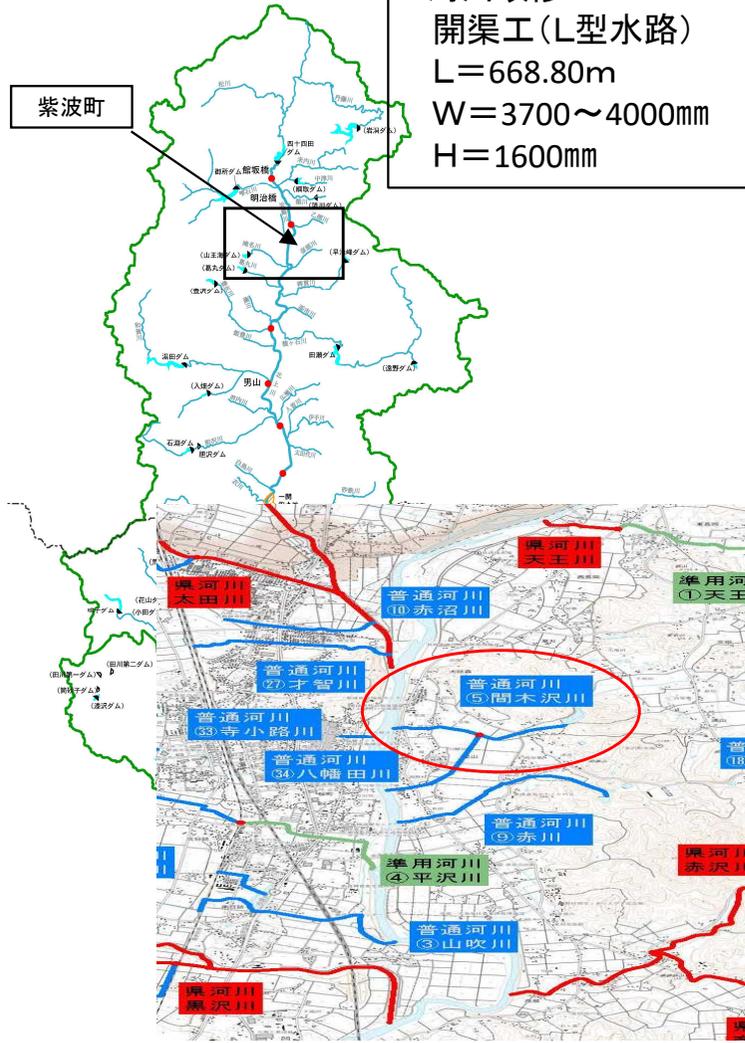
○ 準用河川・普通河川の整備促進 (R4年度工事完了)

岩手県が施行する星山・犬吠森地区圃場整備事業における水路改修に併せて、普通河川間木沢川の改修を行った。事業主体は岩手県であり、町が改修費用の一部を負担した。

位置図

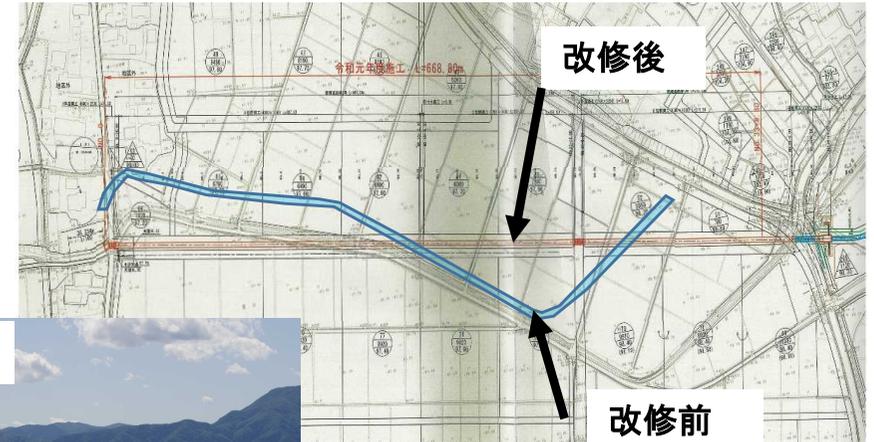
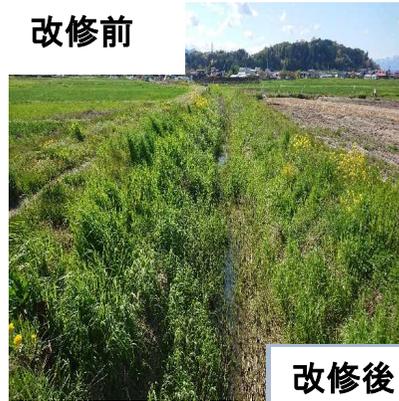
「北上川水系」

- ・ 河川改修
開渠工(L型水路)
L=668.80m
W=3700~4000mm
H=1600mm



具体的な取組み内容

改修前



改修後



実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水範囲の限定、氾濫水の制御	圃場整備に合わせ河川断面確保			

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

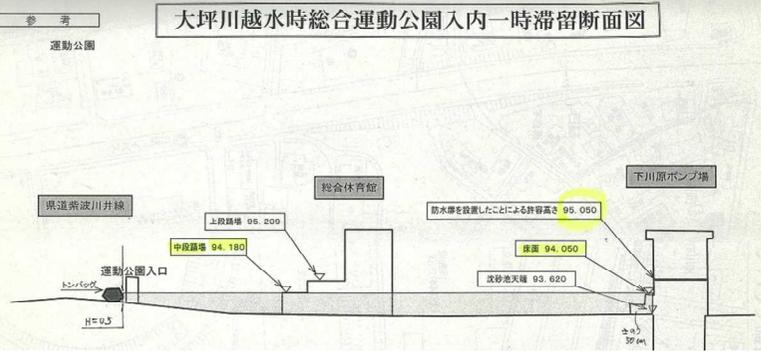


○公園貯留(紫波運動公園)

普通河川大坪川が越流した場合、紫波運動公園の出入り口を1トン土のうバックで一時締め切り、桜町字上川原及び下川原地内への流入を抑制し、水害の縮減を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水範囲の限定、氾濫水の制御	公園貯留による流入抑制	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

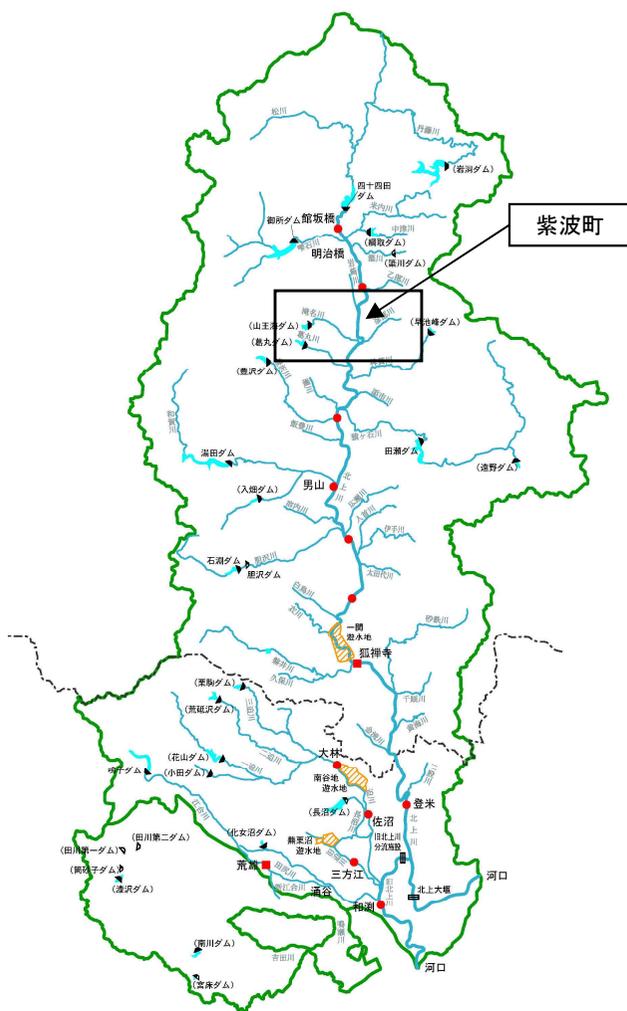


○ 準用河川・普通河川の整備促進

近年、激甚化・頻発化の傾向にある水害に備え、町管理河川のうち34カ所の浚渫を行い、河道の確保に努め災害発生リスクの低減を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

○ 町が管理する準用河川及び普通河川において土砂の堆積により流路を阻害され、今後想定される大雨時には深刻な浸水被害が発生する恐れがある。このため、緊急浚渫推進事業債等を活用し計画的な河道掘削により浸水被害リスクを低減を図る。

着手前



実施後



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水範囲の限定、氾濫水の制御	堆積土砂浚渫による河道確保	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

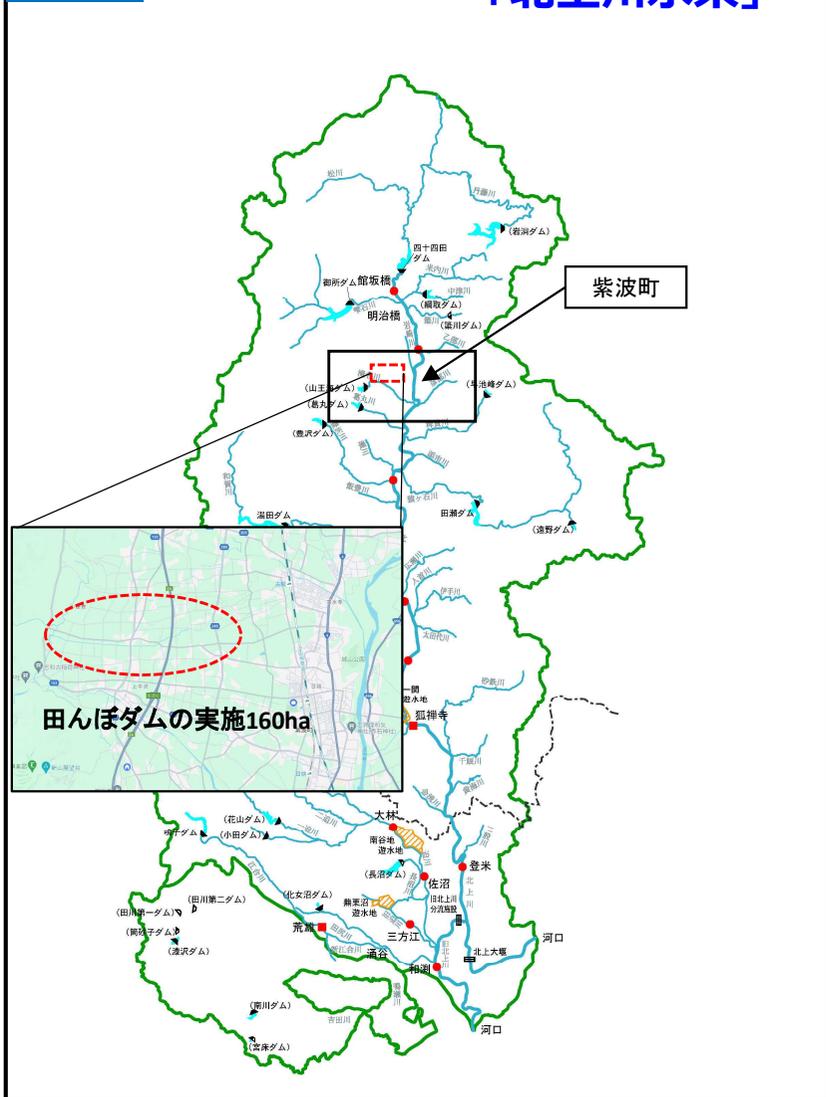


○流域の雨水貯留機能(田んぼダム)の推進

近年、激甚化・頻発化の傾向にある水害に備え、田んぼダムの取組を推進することで流出抑制を行い、下流域の湛水被害リスクを低減を図る。

位置図

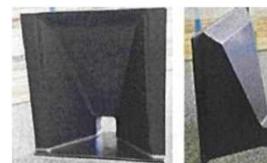
「北上川水系」



具体的な取組み内容

紫波町水分上地区環境保全活動組織による多面的機能直接支払い交付金事業を活用した田んぼへの流出抑制排水溝の設置

○水田落水口への調整器具設置により、水田からの流出抑制を図り、下流域の湛水被害リスクの低減を図る。



組織: 水分上地区環境保全活動組織

構成人数: 農業者 180人
農業者以外 97人

活動面積: 341ha
(内圃場332ha,畑19ha)

田んぼダム取組面積: 166ha

排出口が漏斗状になっており、排水口上部までは流出が抑制される。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
氾濫水の制御	田んぼダム	取組への理解を促進しながら随時実施予定		



○浸水センサーの整備

・浸水被害の防止・軽減、早期復旧を図るため、浸水発生時の迅速な判断・情報発信に役立つ浸水センサーを整備し、浸水範囲や浸水深を早期に把握し、危機管理体制の強化を図る

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

- 令和6年度に、浸水センサーを整備(予定)
- 浸水発生を早期に把握することで迅速な判断・情報発信に活用し、被害の軽減を図る。

●22年12月大雨における浸水被害
(牡丹野立体交差)



浸水センサー
(イメージ)



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	浸水センサーの整備	実施予定		

○排水路の整備(市街化区域内における排水路の整備・維持管理)

地表面の被覆化により地下浸透機能が低下し、降った雨が地面に浸透することなく、短時間に雨水施設や水路に流れ込むことで氾濫の危険性が高まっており、「生命の保護」「都市機能の確保」「個人財産の保護」の観点より、排水路を整備・維持管理する。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

- ◇ 雨水整備計画区域内において雨水幹線等の整備実施(整備水準:8年確率)。
 - ◇ 整備済み雨水幹線における堆積土砂の撤去、スクリーン清掃等の維持管理の実施。
 - ◇ 降雨が想定される前に施設パトロールの実施。
- ↓
- ◇ 事業着手すべき排水区の優先順位の検討。
 - ◇ 適切な維持管理の継続実施。

排水路の維持管理



排水路の整備(1800×1100)



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
排水路の整備・維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・雨水幹線の整備 ・堆積土砂撤去、清掃 ・施設パトロール 	<div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">実施予定</div>		

○ 普通河川の整備促進

矢巾町を流下する河川は、一級河川5河川と町が管理する普通河川からなり、災害復旧などにより護岸整備された箇所を除いてはほとんどが自然護岸となっており、浸食が進み土砂の堆積が多く見受けられ流下を阻害していることから、早急な整備が求められている。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

◇ 町内普通河川の整備された一部は、当時の基盤整備時に土地改良区などで排水路として整備したものと、河川災害復旧で護岸を形成された箇所となっているが、普通河川のそれ以外の箇所を整備できる補助対象メニューがないことから取り残されている現状であった。



◇ 流域治水プロジェクトに位置付けることにより、普通河川の整備促進を図るとともに、持続可能な流下能力の向上を図り住民の生命と財産を守る。

→ 基盤整備時に整備された排水路形態



→ 河川災害復旧で整備された箇所



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水範囲の限定、氾濫水の制御	堆積土砂の除去	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



○ 駐車場の透水性舗装

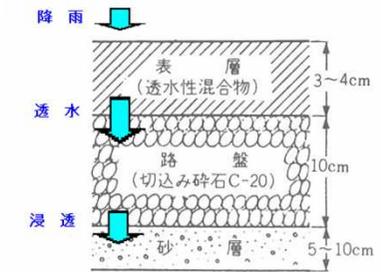
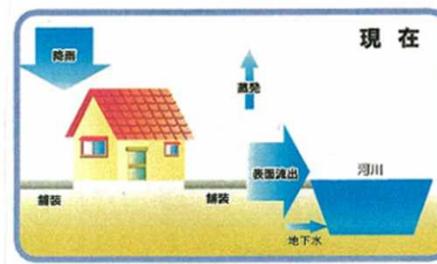
盛岡市に隣接し都市化が進む矢巾町では、公共施設や民間施設の開発により整備される駐車場などからの雨水流出が顕著であることから、雨水流出を抑制するため透水性を持たせた歩道面などに新設・改良することにより、流出量を軽減させることを目的とした指導を行う。

位置図 「北上川水系」



具体的な取組み内容

- ◇ 一般家庭では、駐車場の雨水を宅地内において浸透させる指導を行う。
 - ◇ 公共・民間施設の駐車場について、新設・改良する場合に透水性舗装などを施す指導を行う。
- ↓
- ◇ 一般家庭での透水性舗装は透水係数への数値化が難しいと考えられることから、一律の支援を行う検討を行うほか、ある程度の大きな事業所などの駐車場などについては透水性舗装などを施す指導を行う。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

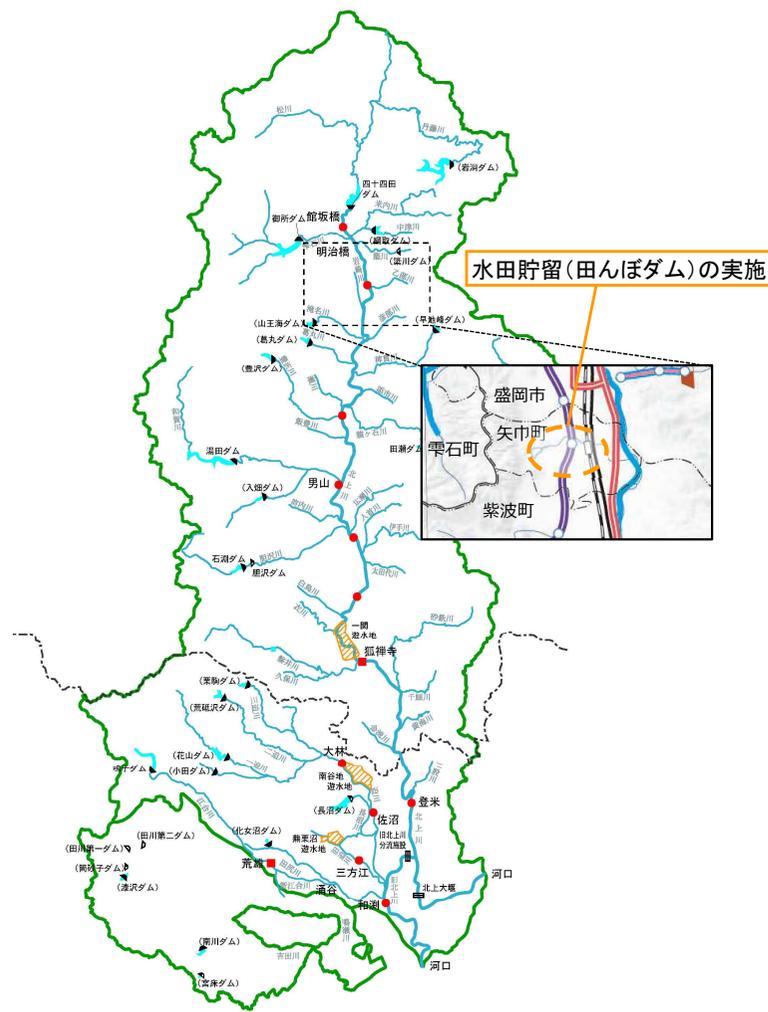
取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
雨水流出の軽減			実施予定	

○水田貯留(田んぼダム)の取組み推進

平成25年8月の大雨において、市街地に甚大な浸水被害が生じた経験を踏まえ、営農しながら取り組むことができ、地域の防災・減災に貢献する「水田貯留(田んぼダム)」を実施し、水災害リスクの低減を図る。

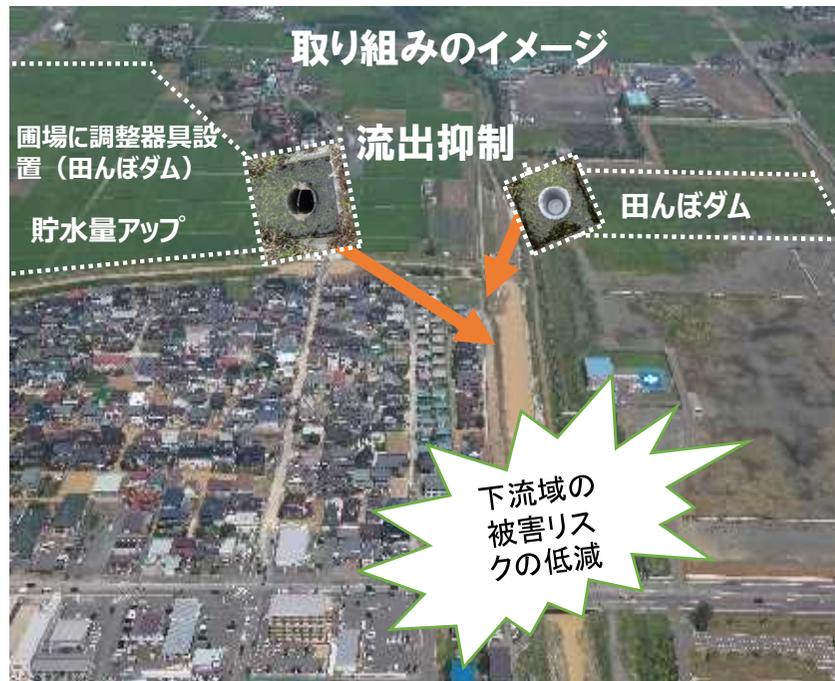
位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

- ① 前年度に引き続き水田落水口への調整器具設置により、流出抑制を図り、下流域の水災害リスクの低減を図る。
- ② 矢次地区ほ場整備事業実施(30ha)に併せ、全域で調整器具装置の設置を検討。
- ③ 広宮沢地区ほ場整備事業実施(30ha)に併せ、全域で調整器具装置の設置を検討。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
水田貯留(田んぼダム)の更なる普及・推進	ほ場整備事業に併せ、調整器具装置を整備	実施予定(面積を順次拡大)		

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



矢巾町

○洪水・内水ハザードマップの見直し (防災マップの更新)

近年における災害から得た教訓や新型コロナウイルス感染症対策を反映した現行(令和5年3月発行)の防災マップについて、その活用をさらに普及するとともに、矢巾町に關係する河川の洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の見直しに基づき更新を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

- ◇ 防災マップの活用法について更なる普及・周知を図る。
 - ◆ 災害リスクの把握(洪水、土砂災害、地震等)
 - ◆ 警戒レベルと避難情報
 - ◆ 防災関連情報の入手
 - ◆ 日頃の備えと早めの避難
 - ◆ マイ・タイムラインの普及等
- ◇ 防災マップの更新
 - ◆ 洪水想定浸水区域(町内各河川、内水)
 - ◆ 土砂災害警戒区域等
 - ◆ 指定緊急避難場所及び指定避難所
 - ◆ 最新の防災関連情報

矢巾町 マイ・タイムライン(わが家の避難行動計画)

準備レベル	1 準備	2 警戒状況発生	3 避難の決りかけ	4 避難の決りかけ	5 避難行動の実行
目的	災害発生時の初期対応	警戒状況発生時の初期対応	避難の決りかけ	避難の決りかけ	避難行動の実行
行動の目安	1. 避難経路の確認 2. 避難物資の準備 3. 避難情報の確認	1. 避難情報の確認 2. 避難物資の準備 3. 避難経路の確認	1. 避難の決りかけ 2. 避難物資の準備 3. 避難経路の確認	1. 避難の決りかけ 2. 避難物資の準備 3. 避難経路の確認	1. 避難行動の実行 2. 避難物資の準備 3. 避難経路の確認

矢巾町 防災マップ

「安全・安心なまちづくりの実現」
誰も取り残さない。安全・安心な防災行動のために

冊子版

WEB版

防災マップの活用法の普及・周知

防災マップの更新

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制の整備	・防災マップの普及 ・防災マップの更新	実施予定	実施予定(更新後)	実施予定

○避難場所への誘導標識の整備（アンダーパス箇所への浸水深標識設置）

平成25年8月9日の大雨洪水の際、JR東北本線をアンダーパスしている町道が浸水し、通行止めの措置を余儀なくされたことを受け、路面及び壁面に浸水深を表示し、万が一浸水した時の車両への注意喚起をすることにより、人的被害を軽減させることを目的とした対策を行う。

位置図

「北上川水系」

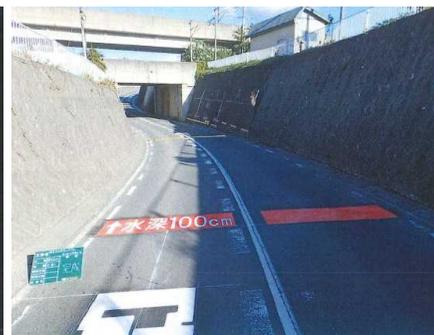


具体的な取組み内容

- ◇ 町内7箇所のアンダーパスのうち、主要路線の4箇所について浸水深50cm、1mの表示を行っている。
- ◇ 今後も残り3箇所の表示を行い、注意喚起を行うとともに、被害の軽減を図る。



「冠水時注意」表示



浸水深表示



壁面浸水深表示

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

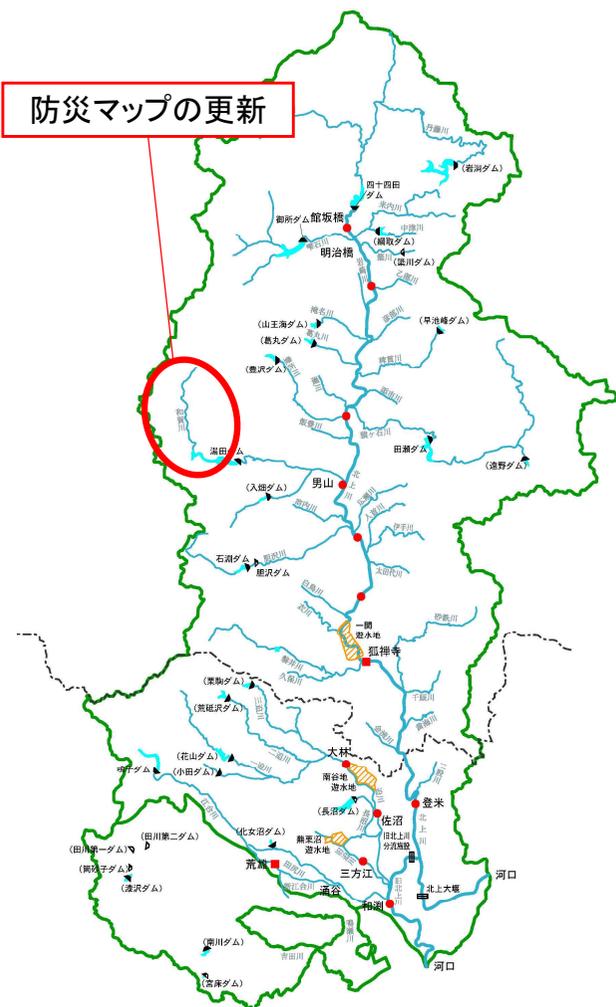
取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
誘導標識の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな表示の実施 ・既表示箇所の維持管理 		実施予定	

○防災マップの見直し・更新

・浸水地を平時から確認することで迅速な判断・情報発信に活用し、被害の軽減を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

- 令和8～9年度に、新たな町防災マップを整備(予定)
- 浸水地を平時から確認することで迅速な判断・情報発信に活用し、被害の軽減を図る。
- 浸水想定以外にも防災学習ページを設け、基本的な防災意識の高揚を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	防災マップ更新	内容検討	作成製本	

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



○ 準用河川の整備促進

近年、激甚化・頻発化の傾向にある水害に備え、準用河川の浚渫を推進することで河道確保に努め水害発生リスクの低減を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

町が管理する準用河川の土砂堆積は深刻な状況であり、通水断面が阻害されており、大雨の際に浸水被害が発生する可能性が懸念される。

このため、緊急浚渫推進事業債を活用し、堆積した土砂の状況を確認するとともに、計画的な土砂の撤去を行い、準用河川の適切な管理及び河川の機能を確保し、浸水被害の発生リスクの軽減を図る。

位置図



浚渫工事实施状況写真

浚渫前



浚渫後



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
氾濫を防ぐ・減らす	準用河川の浚渫	実施予定		

○田んぼダム実施の普及啓発

近年、激甚化・頻発化の傾向にある水害に備え、田んぼの貯留機能を利用した田んぼダムの実施について普及啓発を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取り組み内容

近年、地球温暖化に伴う気候変動の影響等により、洪水などによる水災害が頻発・激甚化するとともに、水災害のリスクの増大が懸念されている中、田んぼが有している雨水貯留機能を活用して、周辺の農地・集落や下流域の浸水被害リスクの低減を図ることが期待される。

このことから、ほ場整備を進めるとともに田んぼダムの効果について農業者に普及啓発を行います。

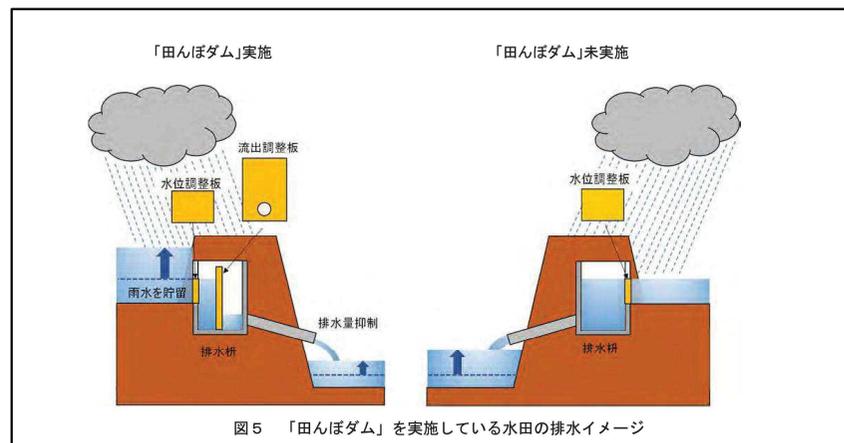


図5 「田んぼダム」を実施している水田の排水イメージ

※イメージ図は農林水産省農村振興局整備部発行資料を引用。
 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
氾濫を防ぐ・減らす	田んぼダムの普及啓発	実施予定		



○ハザードマップや水害リスクに関する情報の住民周知

近年、激甚化・頻発化の傾向にある水害に備え、防災マップ(冊子型)を全戸配布しリスク情報の充実を図る。

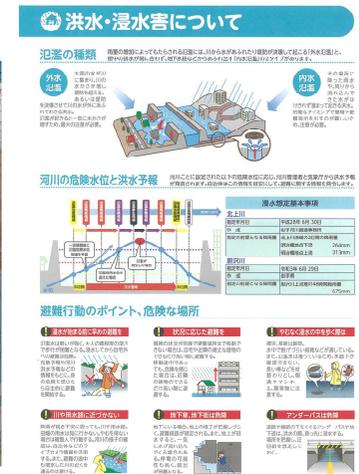
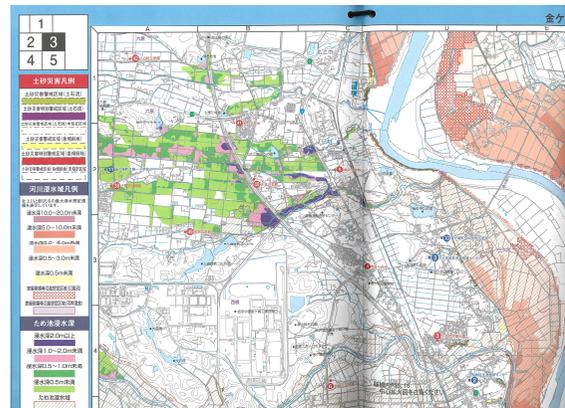
位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

- 町の水害、防災に関する情報を1冊の冊子にまとめて作成
- 作成した防災マップを全戸配布し、災害時のリスク情報を周知



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
ハザードマップや水害リスクに関する情報の住民周知	ハザードマップの全戸配布	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



○ 準用河川・普通河川の整備促進

町が管理する準用河川、普通河川において、計画的に河道掘削を実施し、大雨時の浸水被害の発生リスクの軽減を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

- 町が管理する準用河川、普通河川で河道掘削を実施(予定)
- 河道掘削により、現況河道の流下能力を確保し、大雨時の浸水被害の発生リスクの軽減を図る。



実施状況写真



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

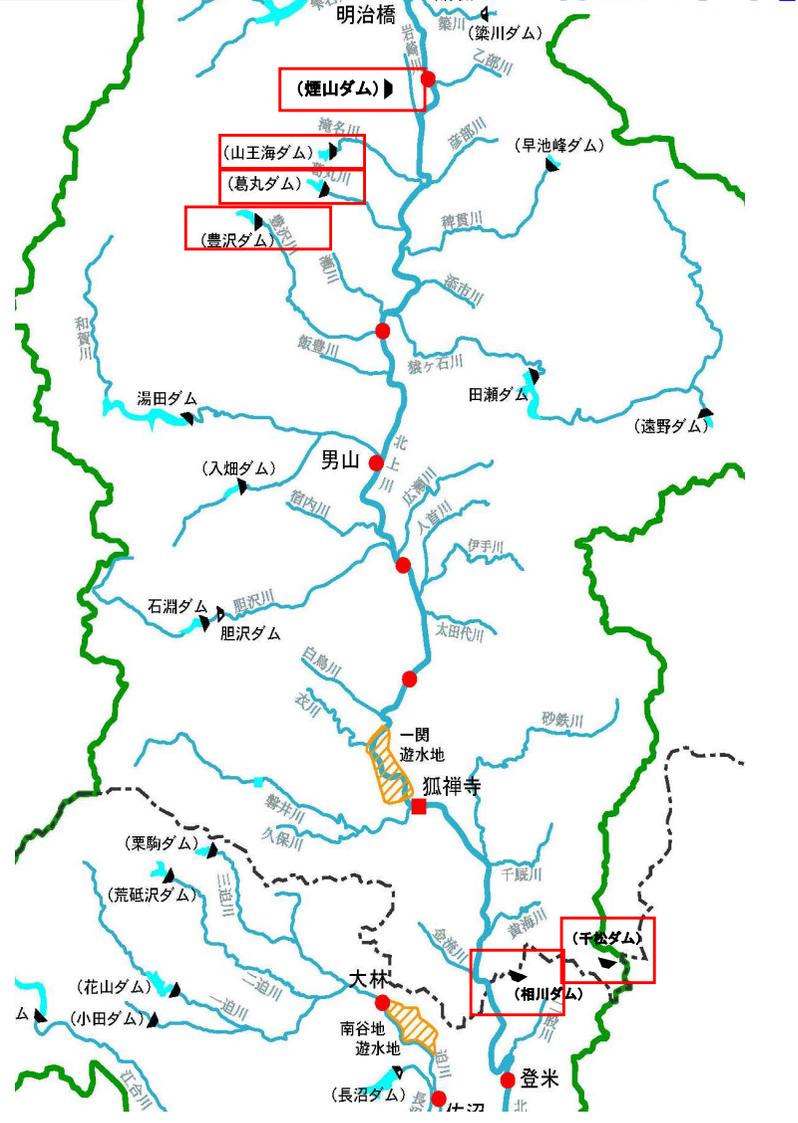
実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削	実施予定		

○事前放流等の実施

北上川水系の農業用ダム(山王海ダム、葛丸ダム、豊沢ダム、煙山ダム、相川ダム、千松ダム)において、令和2年の出水期から洪水調節機能の強化を図るため、北上川水系(北上川上流)治水協定を締結。

位置図 「北上川水系」



具体的な取組み内容

【治水協定に基づく事前放流等】

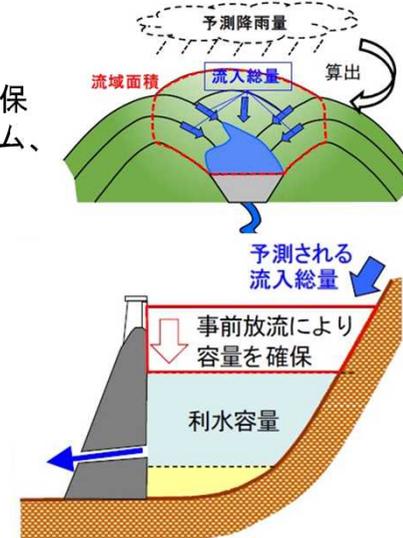
予測降雨量から算出したダムの流入総量を踏まえて洪水調節に利用可能な容量を設定し貯水位を管理するとともに、河川管理者から提供される気象情報をもとに事前放流を実施。

【これまでの取組実績】

治水協定による事前放流(葛丸ダム)、時期ごとの目標貯水位を確保するための放流を実施(山王海ダム、葛丸ダム、豊沢ダム、煙山ダム、相川ダム、千松ダム)。

【農業水利施設を活用した新たな取り組み】

- ・用水路についても、洪水調節機能の強化として、大雨が想定される場合は自助努力による水位低下について施設管理者に働きかけを行う。
- ・農業水利施設の新設・更新にあたっては、放水ゲート等の遠隔操作や監視カメラの設置により迅速な洪水対応が可能となるよう配慮する。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

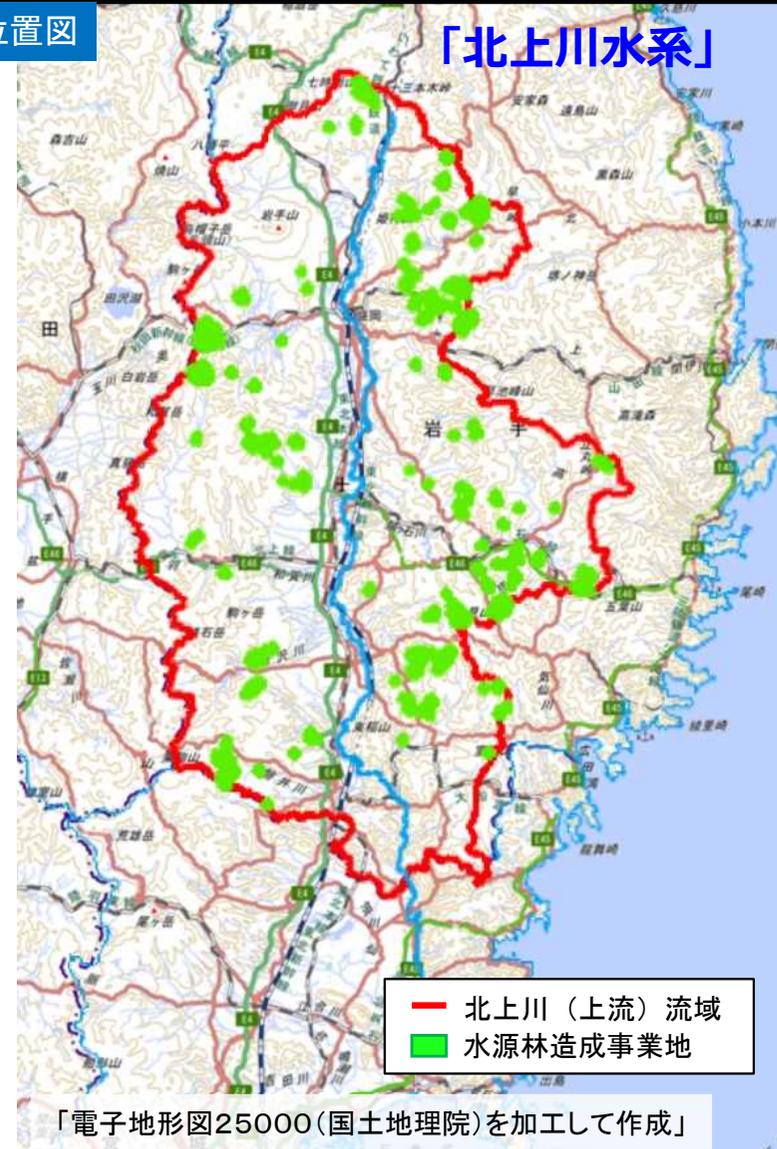
ダム名	洪水調節可能容量 (万m ³)	基準降雨量 (mm)	ダム名	洪水調節可能容量 (万m ³)	基準降雨量 (mm)
山王海ダム	1,236	78	煙山ダム	91	77
葛丸ダム	107※	74	相川ダム	46	96
豊沢ダム	645	91	千松ダム	10	96

※貯水位運用: 22万m³から107万m³に見直し予定

○水源林造成事業による森林の整備・保全

北上川流域内の水源林造成事業地において除間伐等の適切な森林整備を実施することにより、土砂流出防止や水源涵養機能等森林の有する公益的機能の維持増進を図ります。

位置図



具体的な取組み内容

- ・水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業です。
- ・水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。
- ・北上川（上流）流域における水源林造成事業地は、約220箇所（12市町、森林面積約8千ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していきます。

流域における水源林の整備



針広混交林



育成複層林

森林整備実施イメージ



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水範囲の限定、氾濫水の制御	森林整備	実施予定		

③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



〇ICTを活用した洪水、防災に関する各種情報発信の充実(洪水時における水位情報等の充実)

- ・岩手県河川情報システムによる水位・雨量情報のリアルタイム配信に加え、河川の水位情報についてLINE・X(旧Twitter)を活用し、住民へ情報提供を行い、避難行動につなげる。
- ・避難等の時間を確保するため、県管理河川において、洪水予報河川指定の検討を行う。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

【LINE・X(旧Twitter)の活用】

- 〇岩手県河川情報システムによる水位・雨量情報のリアルタイム配信に加え、河川の水位情報についてLINE・X(旧Twitter)を活用し、住民へ情報提供を行う。
- 〇令和4年度末から運用開始中。



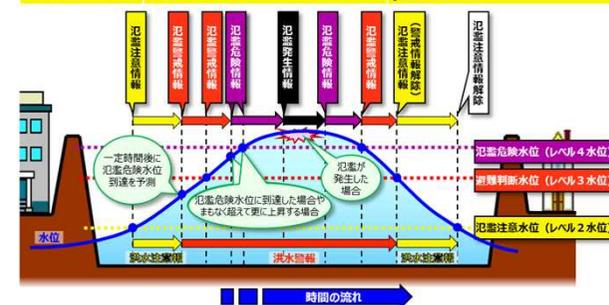
岩手県河川情報システム
LINE配信サービス

岩手県河川情報システム
X(旧Twitter)配信サービス

【洪水予報河川指定の検討】

- 〇県管理河川において、国の本川・支川一体の予測水位情報を活用した洪水予報河川の指定を検討する。

洪水予報の標度(種類)	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階
〇川氾濫発生情報(洪水情報)	氾濫の発生(氾濫水の子報)	氾濫水への警戒を求める段階(警戒レベル5相当)
〇川氾濫危険情報(洪水情報)	高瀬な水位上昇によりもなぐ氾濫危険水位を超え、さらに水位の上昇が見込まれる場合、あるいは氾濫危険水位に到達した場合	いつ氾濫してもおかしくない状態(避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階(警戒レベル4相当))
〇川氾濫警戒情報(洪水情報)	一定期間後に氾濫危険水位に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階(警戒レベル3相当)
〇川氾濫注意情報(洪水注意情報)	氾濫注意水位に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階(警戒レベル2相当)



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	洪水予報河川指定の検討	指定検討	運用	

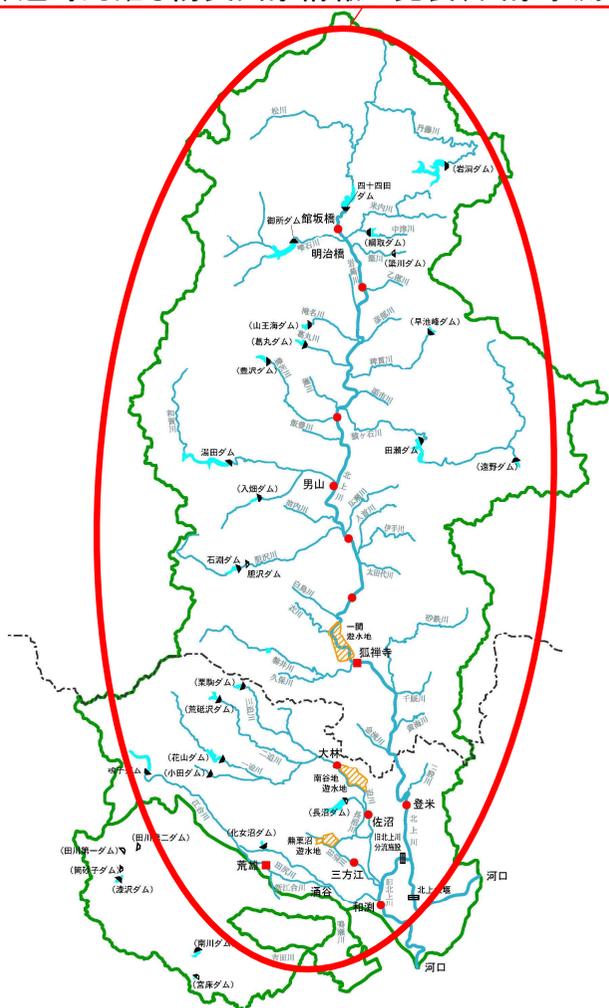
○防災意識向上、被災自治体への気象資料支援、気象予測の精度向上

・防災気象情報の利活用に関する普及・啓発活動、適時的確な防災気象情報の発表、気象予測の高度化

位置図

「北上川水系」

防災気象情報の利活用に関する普及・啓発活動、
適時的確な防災気象情報の発表、気象予測の高度化



具体的な取組み内容

- 「防災気象情報の利活用に関する普及・啓発活動」～毎年実施～
- 「適時的確な防災気象情報の発表」～随時実施～
- 「気象予測の高度化」～中長期の取組み～



2023年5月18日
気象防災ワークショップ
(岩手県)



「8月13日の大雨による
JETT派遣」



田野畑村

ひまわり後継機の整備計画

◎現行の気象衛星ひまわり9号、9号は令和11(2029)年度までに設計上の寿命を迎える
◎平省基本計画(令和2年6月30日閣議決定)に沿って、令和11(2029)年度の後継機の運用開始に向け、
令和5(2023)年度をめどに後継機の製造に着手

年度	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
後継機製造								
打上げ								
運用開始								

- 線状降水帯や台風等の予測精度を抜本的に向上させるため、大気の大気観測機能など最新技術を導入した、次期静止気象衛星を整備
- ※次期静止気象衛星で得られる水蒸気観測データは、従来の観測網の2,000倍
- 関係府省連携の下、衛星観測データの多方面への活用を検討

◎市町村単位で危険度の把握が可能な気象情報を半日前から提供し、早期避難による人的被害の最小化と物的被害の軽減を図る

◎市町村単位で危険度の把握が可能な気象情報を半日前から提供

◎市町村単位で危険度の把握が可能な気象情報を半日前から提供

◎市町村単位で危険度の把握が可能な気象情報を半日前から提供

ひまわり後継機の
整備計画

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
気象データに関する支援	防災意識向上 気象資料支援 気象予測の精度向上	実施予定		

○北上川上流ダム再生事業

北上川上流ダム再生事業は、岩手県の県都であり国道4号、46号、東北新幹線など北東北の交通の要衝でもある盛岡市を水害から守るために、四十四田ダムのかさ上げ及び御所ダムの操作方法の変更により治水機能の増強を図るものである。

位置図

「北上川水系」

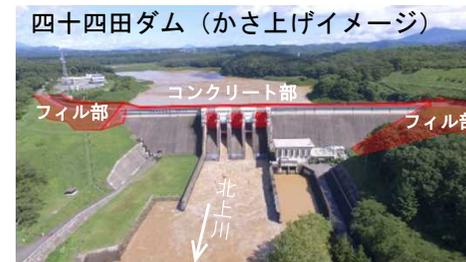
北上川上流ダム再生事業



具体的な取組み内容

【四十四田ダム】 ※かさ上げ

- 場 所: 岩手県盛岡市(北上川水系北上川)
- 目 的: 洪水調節、発電
- 諸 元: 重力式コンクリート・アース複合ダム
堤高 50.0m、総貯水容量 4,710万m³



【御所ダム】 ※操作の見直しを検討

- 場 所: 岩手県盛岡市(北上川水系雫石川)
- 目 的: 洪水調節、発電、工業用水、
流水の正常な機能の維持
- 諸 元: 重力式コンクリート・ロックフィル
複合ダム
堤高 52.5m 総貯水容量 6,500万m³



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区 分	取組項目	工 程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
氾濫をできるだけ防ぐ・ 減らすための対策	北上川上流ダム再生 事業	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



北上川ダム統合管理事務所

○事前放流等の実施

北上川ダム統合管理事務所が管理する四十四田ダム、御所ダム、田瀬ダム、湯田ダム、胆沢ダムについて、大規模な洪水が予測される場合に、利水に使用するために貯留している水を事前に放流して水位を下げる「事前放流」を北上川水系(北上川上流)治水協定に基づき実施する。

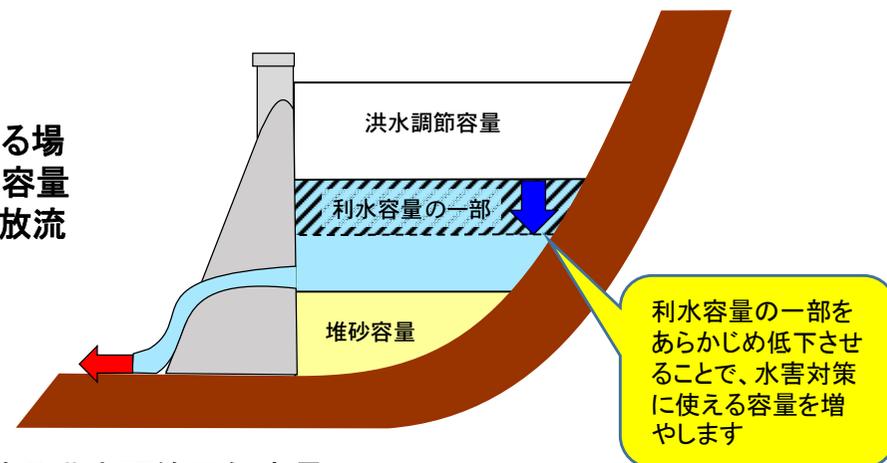
位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

【事前放流とは】
大規模な洪水が予測される場合、ダムの利水に使用する容量に貯留している水を事前に放流し、水位を下げる操作。



■事前放流により増加する洪水調節可能容量

ダム名	洪水調節容量 (万m ³)	事前放流により 増加する 洪水調節可能 容量(万m ³)	増加後の 容量 (万m ³)	増加率 (%)
5ダム合計	28,721	4,146	32,867	14.4

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	事前放流の実施	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



○ダムの堆砂対策

北上川ダム統合管理事務所が管理する四十四田ダム・御所ダム・湯田ダムについては、利水容量・洪水調節容量に堆砂が進行し、流水の貯留機能が低下していることから、貯留機能の回復のための持続的な堆砂対策、及び発生土砂の有効利用を行う。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

長期的に持続可能な堆砂対策として、各ダムの現地状況等から適切な対策を選定し、必要な施設の設置やストックヤードの整備を行い、貯留機能の回復と土砂の有効利用を両立させ、効率的かつ持続的な貯水池管理を行うため、今後も検討していく。



バイパストンネル
(下流へ流す)



堆砂ゲート(土砂フラッシュ)



ストックヤード
(土砂有効利用)



浚渫(取り除く)



貯砂ダム(貯めて取る)

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	ダムの堆砂対策	実施予定		

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

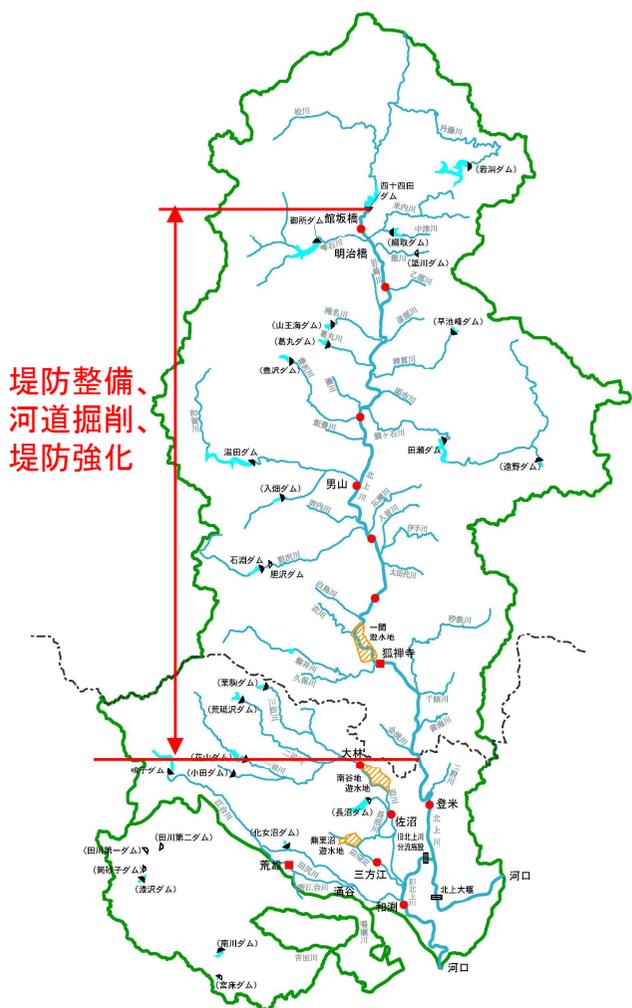


○堤防整備、河道掘削、堤防強化の実施

気候変動(2℃上昇時)を考慮した戦後最大洪水であるS22.9洪水が流下する場合においても、現行の治水安全度を確保し、洪水による災害発生の防止又は軽減を図る。

位置図

「北上川水系」



具体的な取組み内容

○戦後最大洪水を記録した昭和22年9月洪水に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、北上川水系北上川流域では浸水世帯数が約9,300世帯(気候変動考慮前の約2.7倍)になると想定されるが、事業の実施により浸水被害が解消される。



彦部地区：河道掘削の状況（紫波町）

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

実施工程

区分	取組項目	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
浸水被害の防止又は軽減	堤防整備、河道掘削、堤防強化	実施予定		

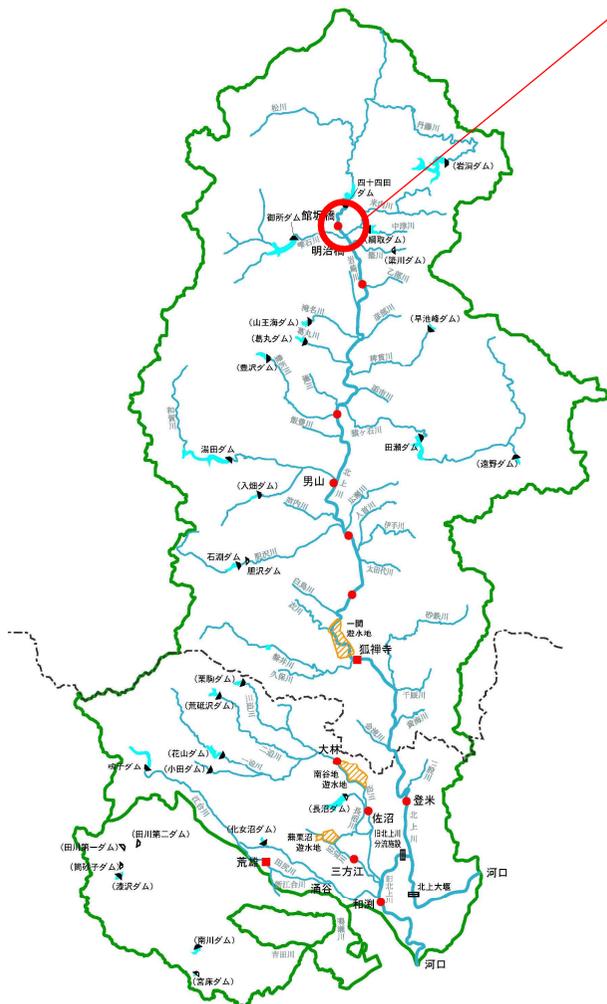
○出前講座の実施

・地域防災力の向上のため出前講座の実施

位置図

「北上川水系」

出前講座



具体的な取組み内容

○令和5年度に、盛岡市仙北地区にて3回の出前講座を実施。
 第一回(令和5年6月6日):ハザードマップ等に関する勉強会
 第二回(令和5年6月18日):水害から身を守るために
 第三回(令和5年9月18日):治水地形分類図について



令和5年6月18日(日)開催状況写真



令和5年9月3日(日)開催状況写真

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	出前講座の実施	実施予定		

○防災学習

・「雨」に関する様々な展示物とおし、災害に関する知識や河川環境保全の大切さを学習してもらうことを目的

位置図

「北上川水系」



防災学習

具体的な取組み内容

- 主催:東北地方整備局 水の巡回展ネットワーク
- 場所:北上川学習交流館「あいぽーと」
- 期間:令和5年7月14日(金)～8月6日(日)

【展示物】

- ・ インタラクティブ映像「ひかりあめ」
- ・ インタラクティブ映像「雨おと・水おとコレクション」
- ・ 実験模型「雨量計」
- ・ 標本ジオラマ展示「雨と生き物たちの不思議な関係」
- ・ 標本展示「雨粒標本」
- ・ 映像展示「あらぶる雨が引き起こす災害」
- ・ 楽器「雨おと・水おと楽器」
- ・ 防災グッズ
- ・ あめちしき



会場の様子

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	防災学習	実施予定		

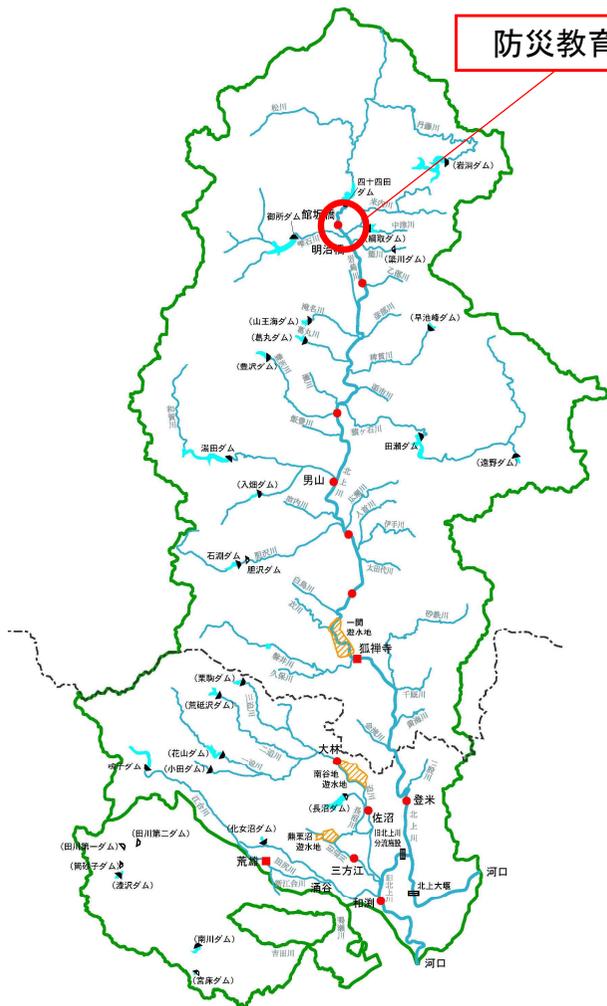
○防災教育

・自分が住んでいる街の浸水危険度やハザードマップを正しく理解し、防災に対する知識の向上を目指すもの

位置図

「北上川水系」

防災教育



具体的な取組み内容

- 岩手河川国道事務所と東北工業大学が連携し、11月13日、17日に『キッズ向けさいがいMAP』を活用した防災教育を実施。
- 『キッズ向けさいがいMAP』は、「ゲームソフトの“マイクラフト”」、「3D都市データ (PLATEAU)」、「浸水想定区域図」を組み合わせ、自分が住んでいる街が浸水した仮想空間を再現したもので、その中をパソコン上で自由に散策し、自分が住んでいる街の浸水危険度やハザードマップを正しく理解し、防災に対する知識の向上を目指すもの。
- 防災・減災の取組み研究をしている“東北工業大学工学部都市マネジメント学科 小野桂介講師”から、盛岡市内の小中学生(盛岡市立河南中学校、中野小学校、大慈寺小学校)に対して『キッズ向けさいがいMAP』を用いて説明を実施。



盛岡市立中野小学校 開催状況写真



マイクラフトに浸水した街を再現

NOT OFFICIAL MINECRAFT CONTENT.
NOT APPROVED BY OR ASSOCIATED WITH MOJANG.

施策の実施工程

取組項目	対策内容	工程		
		短期 (R7まで)	中期 (R12まで)	中長期 (R12以降)
避難体制等の強化	防災教育	実施予定		